

※一部、台本と音声に違いがある箇所があります。  
ご了承ください。

【左…アイシャ

中央…セラ

右…ジスニア】

※ジスニアのみ旧ラフです※



-NTR 共通台本-

cha0041 アイシヤ

「あ、あゝ。テスト。マイクチェック完了。では……」

cha0042 アイシヤ

「本製品をご購入いただき、誠にありがとうございます」

cha0043 アイシヤ

「この作品は……確かな幸せが、表面上は続いていく。でもその裏で実は、女の子たちが寝取られている……というコンセプトで制作されています」

cha0044 アイシヤ

「だからまず、とても幸せな日常を楽しんでいただきます」

cha0045 アイシヤ

「なお幸せパートでは、後に大切な人たちを寝取られてしまう男性のボイスも収録されているので、より深く背徳感と幸福感を得られることでしょう」

cha0046 アイシヤ

「その上であなた様には、濃厚なエロスをお届けします」

cha0047 アイシヤ

「うふふ、エッチなシーンが始まるまで、ズボンとパンツは履いたまままでお願いしますね」

cha0048 アイシヤ

「それでは、物語をお楽しみ下さい」

≡ ▼ G0001 プロポーズを受けるセラ

【収録メモ】とある日の事後で、堕とされる直前の吐息です。ちょっと苦しいです。

cha0038 ジスニア 「はあ……はあ……はあ……ん、はあ……」

【収録メモ】以下、モノログでお願いします。

cha0039 ジスニア (M) 「どうして、こんなことになったのか。朦朧とした意識の中で何度も思考を巡らせる

が、答えなんて見つかるはずもなかった」

cha0040 ジスニア (M) 「今まで覚えたことのない快楽に、私は抵抗し続けた。逃げてでも逃げてでも追ってくる快

楽に……」

cha0041 ジスニア (M) 「ああ、でも……もう、逃げ場を失ってしまったみたい」

cha0042 ジスニア (M) 「私は、あなたに従います。ご主人様——」

≡ 音声編集時、ここに間を入れる。

【収録メモ】タイトルコールにもなるので、重みを持たせて下さい。

cha0043 ジスニア 「幸せの裏で、私たちは寝取られる……」

≡ 音声編集時、ここに間を入れる。

【収録メモ】次の文章のみ、モノログでお願いします。

cha0001 ウイル (M) 「俺ウイルス・ターナーは今日、幼馴染のセラに、一世一代の告白をする」

≡ 音声編集時、ここに間を入れて下さい。

cha0034 セラ 「お邪魔します。こんな遅い時間にウイルスの家に来るの、初めてな気がするわね。……

あれ、アイシヤはいないの？」

cha0002 ウイル 「姉さんには、外出してもらってる」

cha0035 セラ 「え、どうして……？」

cha0003 ウイル 「セラと二人っきりで話をしたいからだ」

cha0036 セラ 「っ……そ、そうなの……？ ……話って、何かしら……？」

cha0004 ウイル 「子供の頃にした約束、覚えてるか？ 大人になっても、お互い好きな気持ちが変わらないままだったら……結婚しようって約束」

cha0037 セラ 「……忘れたことなんてないわよ……ずっと、気持ちは変わらないわ。……ウィルは？」

cha0005 ウイル 「……俺の気持ちは、変わった」

cha0038 セラ 「えっ……！？」

cha0006 ウイル 「あの時以上に、セラのことが好きになった。だから……結婚してほしい、セラ」

（ウィルに抱き着くセラ）

cha0039 セラ 「……っ！ ウイル！ ばかあつ、心臓に悪いプロポーズしないでよっ！」

cha0007 ウイル 「一生に一度のことだから。……かっこつけたかったんだ」

cha0040 セラ 「ほんとにバカ……。ずっと待ってたんだからね」

cha0008 ウイル 「待たせてごめんな。……幸せにする」

cha0041 セラ 「うん……!」

cha0049 アイシヤ 「おめでと〜二人とも〜。ぱちぱち〜」

【収録メモ】※セラとウィルの音声を同時にお願いします。

cha0042 セラ (※) 「ええっ!?!」

【収録メモ】※セラとウィルの音声を同時にお願いします。

cha0009 ウイル (※) 「ええっ!?!」

cha0044 ジスニア 「ほっとしましたよ……。幸せになって下さいね」

cha0043 セラ 「アイシヤ、ジスニア!? な、な、なんで二人がここにいるの!?!」

cha0050 アイシヤ 「大事な話があるから席を外してほしいなんて、そんなのもうプロポーズしかないだろうと思うてえ……。ジスニアを呼び出して一緒に覗いちやったの」

cha0045 ジスニア 「私は止めたんですが……。でも、良い物を見させてもらいました。私までドキドキしてしまったので」

【収録メモ】最初のうちは、声にならない声でお願いします。

cha0044 セラ 「~~~~~……っ! もおおお~~~~!」

cha0051 アイシヤ

「さあ、早速二人のこれからをお祝いしましょ。ごちそうとケーキ用意しておいたから」

cha0010 ウイル

「あいかわらず用意周到だなあ!？」

cha0052 アイシヤ

「うふふ、でしょ？ ジスニアと一緒に、二人のために作ったのよ。さ、配膳しなくちや。ウイルス、手伝って」

cha0046 ジスニア

「主役に手伝わせるんですか……!？」

cha0053 アイシヤ

「いいのいいの。ほら、ウイルス、キッチン行くわよおいで」

cha0011 ウイル

「お、おう」

cha0047 ジスニア

「……セラ、ほんとうにおめでとうございます。二人なら、かならず素敵な夫婦になりますよ」

cha0045 セラ

「ジスニア……、ありがとうございます」

cha0048 ジスニア

「何か困ったことがあったら、いつでも相談してください。私にできることであれば、なんでもしますから……」

cha0046 セラ

「うん……。私たちも、ジスニアが困ったときは、かならず力になるわ」

cha0049 ジスニア

「うふふ……、よろしくお願いしますー!」

cha0054 アイシヤ

「お待たせ〜。いちそうのお通りよ〜」

cha0047 ヤリ

「うわぁ……！　す〜く豪勢ね……どれもおいしそう〜！」

cha0012 ウイル

「そうなんだよ、全部旨かったぞ」

cha0050 ジスニア

「ウイルス……つまみ食いしたんですね……？」

cha0013 ウイル

「ぎくぅ！？　ほ、ほら、はやく食べようぜ！　せっかく姉さんとジスニアが作ってき  
てくれたんだからさー！」

cha0048 セラ

「もう、ウイルスったらほんと食い意地張ってるんだから……」

cha0055 アイシヤ

「はいはい、じゃあお祝い開始ね〜。ウイルス、セラ、おめでと〜う。二人の未来に  
幸あれ〜……！」

cha0051 ジスニア

「おめでと〜う！ち〜んもす……ー！」

cha0049 ヤリ

「ありがとう……ー！」

cha0014 ウイル

「ありがとう……ー！」

＝拍手 SE

【収録メモ】以下、モノローグでお願いします。

cha0015 ウイル (M) 「ここは、とある山の中腹に作られた町、サンクトル」

cha0016 ウイル (M) 「郊外に居を構えた山賊との小競り合いが絶えなかったが、戦士団とそれを率いる団長

セラの活躍によって、山賊はこの地を去った」

cha0017 ウイル (M) 「セラの傍には、弓の達人である副官ジスニア、そして俺の姉さんで回復魔法の使い手

アイシヤがついていた」

cha0018 ウイル (M) 「長く求められていた安息が、ようやく訪れた。今宵は町全体で宴が開かれ、戦士団の

功績を讃えるのだった——」

【収録メモ】以上、モノローグ終了。

cha0056 アイシヤ 「かんぱい。……んく、んく……ぶはあ」

cha0052 ジスニア 「アイシヤ、飲みすぎじゃないですか……?」

cha0057 アイシヤ 「何言ってるのよお。せっかくの宴なのよ。ジスニアもほら、なんなら一生分飲んでお  
きなさい」

cha0053 ジスニア 「私は、お酒は苦手なのでっ——」

cha0058 アイシヤ 「大丈夫大丈夫、ほらあ」

cha0054 ジスニア

「ん、んくっ、んぐうっ!」

cha0059 アイシャ

「ん、いいのみつぷりね♪ がんがいきましょう! そうだ、他のみんなにも飲ませにいきましょう。ほら、ジスニアもついてきて?」

cha0055 ジスニア

「えっ……あっ……私、ふらふらしてしまいます……わ、わ……待ってください、アイシャああ……」

cha0019 ウイル

「姉さん……、絡み酒なんて珍しいなあ」

cha0050 セラ

「ジスニア、あのままだと間違いなくぶっ倒れちゃう……。アイシャったら、かなり浮かれちゃってるわね」

cha0020 ウイル

「町のみんなも嬉しそうだ。待ち望んだ平和が、やっと手に入ったもん。ジスニアが敵に捕まってしまった時はどうなるかと思っただけ」

cha0051 セラ

「……山賊のリーダーが、話のわかるやつでよかったわ」

cha0021 ウイル

「セラが話を付けてくれたもん。ジスニアも無事で本当によかった……。もう、山賊に怯えることもない。本当にぐううさま、セラ」

cha0052 セラ

「っっ! 私だけの力じゃないわ。ジスニアもアイシャも、そして他の戦士たちも……みんながいてくれたから成し遂げることができたのよ」

cha0022 ウイル

「謙虚だなあ……まあ、そこがセラのいいところなんだけど。……しばらくはゆっくりできそうか?」

cha0053 セラ

「戦士団としての日々の仕事や鍛錬は怠ってはいけないけど、そうね、以前よりは落ち着くと思うわ」

cha0023 ウィル

「これからは、夫婦としての生活も始まる。……子供も欲しいな」

cha0054 セラ

「や、やだ……はうう、もう子供の話なんて……！ まだ先の話だわ。だって、私たち、まだ、その、キスしかしてないのに……」

cha0024 ウィル

「え、子供ってキスしたらできるんだぜ、知らないのか？」

cha0055 セラ

「ばか！ さすがの私でも騙されないわよ！」

cha0025 ウィル

「あはは。……俺の一生をかけて、セラのことを守る。世界一幸せな家庭をつくらう」

cha0056 セラ

「ウィル……。嬉しい……けど、恥ずかしいじゃない……もおお！ こうなりや飲んで、恥ずかしさをぐまかすしかつ……んぐっ、んくっ……！」

cha0026 ウィル

「お、おい、セラ！ お前、めちゃくちゃ酒弱いのにそんなに飲んだらっ！」

cha0057 セラ

「んぷはあっ……私は、弱くない！ 強いらよ！ 酔わらいもん！」

cha0027 ウィル

「いや、もう酔ってるじゃねえか！ はええよー！」

cha0058 セラ

「なによおっ！ のんじやらめって言うのお！？ アイシャも言ってたじやらいの……今日は宴らのよー！ ……ウィル……ウィルうう……ひぐっ……ひっ、ふえ……」

【修正】ウィルの台詞

cha0059 セラ

「あちやう。始まったよ泣き上戸が……」

cha0060 セラ

「私、ほんとに、ずっとウィルのお嫁さんになるのが夢で……ぐすっぐすつ。だから、こうして町が平和になって、それで、やっと、あなたのお嫁さんになれるんだって」

cha0061 セラ

「そしたら、嬉しすぎて、夢みたいで……ウィルううう！　ぐすぐすつ、えぐつ……」

cha0028 ウィル

「セラ……。俺も嬉しいよ……ようよしよしよし……」

cha0062 セラ

「ん、にやあふううううん……ウィルうう……だいすぎ、らよ……ずうつと……ずうつと……んんむう……すう、すう……むにやあ……」

cha0029 ウィル

「ん……セラ、セラ？」

cha0063 セラ

「くううううすびい……」

cha0060 アイシヤ

「あらう、セラも寝ちゃったのね」

cha0056 ジスニア

「すううう……もお……わらしは……のめられす……くううう……すびい」

cha0061 アイシヤ

「さすが団長と副官ね。お酒の席でも連携ばっちりじゃない。私はジスニアを家に送っていくわ。ウィルはセラを送ってあげなさいな。ほら、ジスニア、行くわよう」

cha0057 ジスニア

「ん……んああ……」

cha0030 ウィル

「よし、俺たちも行くか。よいっしょっと、セラ、しっかりつかまってるよ」

cha0064 セラ

「んん……むにゃあああ……………」

ニ編集時に少し間を入れる。

cha0031 ウイル

「セラ、セラ、家に着いたぞ」

cha0065 セラ

「んむう……むにゃ……むにゃにゃ……」

cha0032 ウイル

「ベッドに寝かすからな、よいっしょ……………つと。セラ、ゆっくろおやすみ」

cha0066 セラ

「やあああゝ、帰っちゃいや……………ウイルス……………一緒にねんねしよ……………んうう……………絶対離さないからねえ……………」

cha0033 ウイル

「お、おいセラ？ まいったな……………。しゃあない、今日はそのまま泊ってくか」

cha0067 セラ

「すうすう……………ウイルスう。むにゃあ、ぎゅって、して…………？ んう……………ぐう……………すうう……………ウイルス、好きい、んん……………すう」

cha0034 ウイル

「ったく……………我慢する俺の身にもなってくれよ……………」

（朝、ウィルが目を覚ますと台所にセラが立っている）

cha0035 ウィル 「ふあああゝあ……。ん、何してんだ？ セラ」

cha0068 セラ 「あ……。おはよう、ウィル。んつと……。家まで送ってもらっちゃったお詫びを兼ねて…

…朝ごはん作ってるのよ」

cha0036 ウィル 「へええ……。！ セラの手料理なんて初めてだな。楽しみだよ」

cha0069 セラ 「えへへ、そんなに喜んでもらえるなんて……。はい、どうぞ、召し上がれ！」

【収録メモ】 いっただきまの後は独り言っぽくぶつぶつと早口でお願いします。

cha0037 ウィル 「いっただきま——っ！？ な、なんだこの皿に盛られた謎の物質達は、黒々としたオーラを発していて、まさにこれはそうだ、ダークマターの化身なのではないか！？」

cha0070 セラ 「どうしたの？ 遠慮せず食べていいのよ」

cha0038 ウィル 「……。セラ、これは、なんていう料理なんだ？」

cha0071 セラ 「料理名は特にないんだけど、あえて名前を付けるとしたら……。バーニング・エッグ・カーニバル、なんて感じかしら？ えっへへ」

cha0039 ウィル 「……。念のため聞くけど、味見はしたんだよね？」

cha0072 セラ 「してないわよ？ だって変なものは入れてないもの。大丈夫、絶対に美味しいから。ほら早く食べて」

cha0040 ウィル 「そ、そうか、わかった。……い、いただきます………ぱくっ」

cha0073 セラ 「お味はいかが？」

cha0041 ウィル 「ん、うま——うぎやあっ、ああああっ、ますいっ、ぐおお、げおっ、おっ、おっお おおっ、おっ——おっ——おっ——」

cha0074 セラ 「なっ……！？ なんです、って……」

cha0042 ウィル 「ぐえっ、ぐえっぐえっ……げはっがはっ……ぐ、口の中に魔物が襲い掛かってっ……げひっ」

cha0075 セラ 「魔物！？ ちよっとおおおお！ いくらなんでも言い過ぎだわ！ 最っ低っ！」

cha0043 ウィル 「いっやいっやいっや！？ 食ってみろよ自分でも！？ げふっげふっ」

cha0076 セラ 「ええ、食べますとも！ ぱくっもぐもぐ、え、おいし——うぎや、ああっ、ああああ っ、っっっ！……？ がはっげくっほおおっ——」

cha0077 セラ

「んぐふぅ……くはっ……これは、魔物よ!!!!!!!!!! んんううっ魔物め、私が退治してやるわ、覚悟おぉおおおお!!!!!!!!!!」

cha0044 ウイル

「待て落ち着けセラ!! これはたしかに魔物の側面は持ち合わせているかもしれないが、まぐうことなきお前の作り出したバーニング・エッグ・カーニバルだ!!!!!!!!!!」

cha0045 ウイル

「一応、料理というくくりになっている!! 冷静になれ!!」

cha0078 セラ

「はっ……!?! 私が作った、料理……? そう、だったわ」

cha0046 ウイル

「よかった……戻ってこれたな、セラ」

cha0079 セラ

「はぁぁ……ありがとう、ウイルス……あなたのおかげで正気になれたわね」

cha0047 ウイル

「いいんだ、いいんだぞ……よし、これは、残念だけど……ほんとの意味でバーニングしような」

cha0080 セラ

「うん……!」

【収録メモ】以下、モノログでお願いします。

cha0048 ウイル (NM)

「これからは、かならず味見をさせようと誓った……というか、料理は俺が担当しよう  
と心に誓った」

cha0049 ウイル (NM)

「こうして、俺が作り直した朝飯を食べた後は、セラは早々と戦士団の元へ向かっていった」

cha0050 ウイル (M)

「平和な日常になったとは言え、これからもいつ何が起るかはわからない。不測の事態に備えて、戦士団は今でも鍛錬を欠かさず続けている」

cha0051 ウイル (M)

「鍛冶士として、戦士団のためにこしらえた武具を持って演習場に訪れると、そこでは訓練の音が響き渡っていた」

【収録メモ】以上、モノローグ終了です。

○cha0081 セラ

「そこ、反応が悪いっ！ 陣形が乱れているぞ！ 前衛、敵に直進せよ！ アイシヤは、防御魔法を！」

cha0062 アイシヤ

「はいはい。みなさんに神のご加護を、それっ」

cha0062 セラ

「ありがとう、アイシヤ。ジスニアの方は……？ うん、うまく動いているようね」

cha0058 ジスニア

「弓兵隊、十分ひきつけてから弓を引け！ 合図は私がする！ 3、2、1……放てっ！」

cha0063 セラ

「よしっ！ 一気に畳み掛けるぞ！ 全軍前進っ……！」

cha0063 アイシヤ

「うーん、仮想とはいえ敵をなぎ倒すこの感じ、気持ちいいわね」

○cha0084 セラ

「……ふう……！ みんな、お疲れ様。すごく良い連携だったわ。今日の鍛錬はこころまでにしましょう。……あ、ウイルス！」

cha0052 ウイル

「お疲れ様。新しい武具を持ってきたぜ」

cha0085 セラ 「待ってました！ ありがとう、ウイル」

cha0053 ウイル 「いや、今日の鍛錬の調子も良さそうだったな」

cha0086 セラ 「先の山賊との戦いで欠けてしまった人もいるけど……みんなよく頑張ってくれてるわ」

cha0059 ジスニア 「ただいま戻りました。あら、ウイル来てたんですね」

cha0054 ウイル 「おう、ジスニアの弓も直しておいたぞ、ほら」

cha0060 ジスニア 「ありがとうございます。……綺麗に直っていますね。さすがウイルです。少し試し打ちしてみてもいいですか？」

cha0055 ウイル 「もちろんだ」

cha0061 ジスニア 「はい、では……。はっ！」

（ジスニア、遠く離れた的を射る）

cha0062 ジスニア 「うん、手によく馴染みます。やはり弓の手入れはウイルに任せるのが一番ですね」

cha0056 ウイル 「ジスニア……あいかわらずすげえな……あんなに遠く離れた的でも、即座に狙えるなんて」

cha0063 ジスニア 「そんな、これは鍛錬の賜物です。練習をすれば誰でもできるようになります。それに、ウイルが手をかけた弓だからこそできることですよ」

cha0087 セラ 「とは言っても、ここまでの腕前を持ち合わせている弓兵は、戦士団の中でもあなただけなんだからね」

cha0064 アイシヤ 「改めて間近でその流れるような動作を見ると、ほんと関心しちゃうわ」

cha0064 ジスニア 「な、何を言うんですか……っ。だから、私の実力じゃなくって、ウィルのおかげですってばっ」

cha0065 アイシヤ 「あらあら、ジスニアったら顔が真っ赤じゃない。ジスニア、もっと自分のことを褒めてあげなきゃダメよっ？」

cha0088 セラ 「謙虚で控えめなところが、ジスニアのいいところでもあるんだけどね」

cha0065 ジスニア 「わ、私のことはさておきっ！ も、もうお昼ですよ！ 市場に出かけるんですよ？」

cha0066 アイシヤ 「行きましょ行きましょ。ウィルも来るっ？」

cha0057 ウィル 「うん、ちょうど、俺も腹ペコだったんだ」

cha0089 セラ 「じゃあ隊のみんなに、今日の総評と挨拶をしてくるから、先に行ってくれろ？」

cha0058 ウィル 「いや、待ってるよ」

cha0090 セラ 「ウィル、お腹すいてるんでしょ？ 先に行って食べてればいいじゃない」

cha0059 ウイル 「そこまですぐにえ性がないわけじゃないよ。セラと一緒にいきたいしな」

cha0091 セラ 「っ……ウィル」

cha0067 アイシヤ 「うふふ、」ういうと」ころでもラブラブなんだから」

cha0066 ジスニア 「ほんと、うらやましい限りです」

cha0092 セラ 「やだっ……からかわないでっ……！ くんうう……！ じゃ、じゃあウィル！ せ  
つかくだからみんなに直接武具を渡してあげればいいじゃないの！？」

（セラがウィルの腕を掴み、ひっぱっていく）

cha0060 ウイル 「それはいいけどっ、うおおっ！ お、おい、セラっ、ひっぱるなって！ 待ってく  
れよおお……！」

cha0068 アイシヤ 「ウィル……まちがはなくセラのお尻に敷かれるわねえ」

cha0067 ジスニア 「そうですね……私もそう思います」

≡ 音声編集時の間＋市場らしいわいわいのやいの S E

cha0093 セラ 「昼時だからかしら。予想よりも人が多いわね」

cha0069 アイシヤ 「長らく店じまいしてた人も、張り切って商売してるわ」

cha0061 ウイル 「それもこれも、セラ達たちが山賊を追いつけてくれたからだな」

cha0068 ジスニア 「私たちは、自分たちの役目を果たしたまでですよ。そうですね、セラ」

cha0094 セラ 「そう、それが私たち戦士団だもの。わあ、このチーズが乗ってるパン、焼きたてで美味しそうね、一つ頂けるかしら？」

○ cha0095 セラ 「んむんむ。うわあ、おいしい……！ ほら、ウィル、あくん」

cha0070 アイシャ 「あら、じゃあ私はこのソーセージが入ったのをいただきますね……。……もぐもぐ。うん、ジューシー」

cha0069 ジスニア 「ん……私は、どれにしようか悩みますね」

cha0071 アイシャ 「ジスニア、これ一緒に食べましょ。はい、あくん」

cha0070 ジスニア 「なっ……自分で食べられますよー！」

cha0072 アイシャ 「いいからいいからウィルの面倒はセラが見ちゃってるから……。ジスニアを妹のよう  
うに面倒見てあげようと思って。ほら、あくんして」

cha0071 ジスニア 「そ、そうですか……。なんかわかるようなわからないような……。ん、では、あくん……  
んむもぐ……。うん……。おいしいです」

cha0062 ウィル 「ソーセージか……。旨そうだなあ……。セラ、俺たちも食おうぜ」

cha0096 セラ 「ウィルもアイシャも、ほんとにお肉好きよね。やっぱりそこは姉弟だわ」

cha0073 アイシヤ

「あら、お肉が好きじゃない人なんていないんじゃない？」

cha0072 ジスニア

「好みはそれぞれじゃないでしょうか？ 私は果物や野菜の方が好きですよ」

cha0074 アイシヤ

「今さっき美味しそうにソーセージ食べてたじゃない？」

cha0073 ジスニア

「ま、まあ……たまにはいいものだとは思いますがね」

cha0097 セラ

「そっか……お肉ねえ。お肉料理ならただ焼くだけだし失敗もなさそうだわ……。ウィル、今度の料理は任せておいてね」

cha0063 ウイル

「っ！？ あ、ああ……はははははは……。あ！？ あそこ、おいしそうな、なんかすげえ肉が入ったやつがあるぞ！！ あれ、なんだああ？！ 気になるなああ！？」

cha0075 アイシヤ

「あら、ほんと。私もあれ食べてみたいわ。ねえ、ウイルス買って。一緒に食べましょ」

cha0064 ウイル

「おし、まかせろ」

cha0076 アイシヤ

「やった、うふふ。楽しみだわ」

cha0065 ウイル

「あつっ、あつっ、熱いなこれっ！……ほら、姉ちゃん。先食っていいぞ」

cha0077 アイシヤ

「ありがとう。おいしそうねえ、いただきます。……んあむ……んむ、んむ、んんうう………最高！」

cha0078 アイシヤ

「うふふ、お姉ちゃんのためにこんなおいしい食べ物見つけて買ってきてくれるなんて。ほんつとに良い弟を持って幸せだな。大好きよ。なでなで……」

cha0098 セラ

「むむむむむっ……!?!」

cha0066 ウイル

「やめろよ、恥ずかしいだろ……もうそんな歳じゃねえっての」

cha0079 アイシヤ

「私にとってはずっとかわいい弟だから。よろしよしよし……」

cha0099 セラ

「もおおおっ！ それ以上ベタベタしないでっ！ ウイル、こっち来て！ 行くわよー!」

cha0067 ウイル

「うおっ……なんだセラ!? いててててっ！ お前、今日ひっぱるの多いぞ!? おい、どこに連れていく気だ!?!」

cha0100 セラ

「家よ!」

【収録メモ】遠ざかっていくようにお願いします。

cha0068 ウイル

「家!? わかった、わかったから、ひっぱるなって!?! おーい!」

cha0080 アイシヤ

「あらまあ、行っちゃった。どうしたのかしらね、セラったら」

○cha0074 ジスニア

「アイシヤ……わかっているでしょう」

cha0081 アイシヤ

「んふふ、まさか実の姉にまでヤキモチ妬いちやうなんて思わないじゃない?」

cha0075 ジスニア

「俗に言うマリッジブルーとやらで、精神が不安定になっているのかもしれませんが。幸せというのは時に怖いもの……らしいので」

cha0082 アイシヤ

「ふくん、詳しいのね、ジスニア」

cha0076 ジスニア

「い、いえ、とある本で読みました……」

cha0083 アイシヤ

「そういえば、ジスニアって前にウィルのこと好きだったわよね？ あの二人の結婚、正直どう思ったの？」

cha0077 ジスニア

「ええ……そんなこともありましたね。今はもう未練はありませんよ。二人の幸せを純粹に祈っています」

cha0084 アイシヤ

「そっかそっかあ……。大丈夫よ、ジスニアにもいい人が絶対に見つかるから」

cha0078 ジスニア

「それは……。そういうアイシヤはどうなんですか？ 浮いた話をまったく聞いたことがありませんけど」

cha0085 アイシヤ

「私ねえ……。実は恋愛ってしたことないの。ぶっちゃけ興味が無いのよね」

cha0079 ジスニア

「そうでしたか……。アイシヤに心奪われる男性は多いみたいですけどね」

cha0086 アイシヤ

「そうなの？ 男の人ってよくわからないわ。まあ、いいのよ。とにかく周りの人たちが幸せであれば、私は満足だから」

cha0087 アイシヤ

「それはもちろん……。ジスニア。あなただって含まれてるのよ」

cha0080 ジスニア 「……ありがとうございます」

cha0088 アイシャ 「さあ、せっかくだからもう少し見て回りましょう？ 私まだまだ食べたいわ。セラは  
ウィルに任せて大丈夫だと思うし」

cha0081 ジスニア 「そうですね。この活気を、もっと堪能しましょう」

ニ 音声編集時に間を空ける

cha0089 ウィル 「セラ、お茶入れたぞ。なあ、頼むよ。機嫌直してくれ、な？」

cha0101 セラ 「……………ごめん、ね。実のお姉さんのアイシャにヤキモチ妬くなんて。私どうかして  
るわよね」

cha0102 セラ 「でも、自分でもどうしていいかわからないモヤモヤした気持ちが、出てくるように  
なっちゃったのよ。ウィルを誰にも渡したくないって思ってしまう」

cha0103 セラ 「子供みたい、だわ。こんな自分、すごく嫌……………うう」

cha0070 ウィル 「姉さんとは言え、女性と距離が近いってのはセラにとっては複雑なことだよな？  
俺こそ、気が遣えなくてごめんな」

cha0104 セラ 「ウィルが謝ることないわよ！ 私……ほんと、ああ、もう」

cha0071 ウィル 「うーん……………じゃあさ、昔みたいに仲直りのお風呂でも一緒に入ろうか」

cha0105 セラ 「えっ……、ええ！？ それは子供の頃だからできたことだわ。裸になってお風呂なんて……！」

cha0072 ウイル 「俺たちは夫婦になるんだぜ。一緒にお風呂だって、変じゃないだろ」

cha0106 セラ 「……そ、そう、ね……でも、まだ裸を見せ合うのは抵抗があるから……。タオルで隠して、背中合わせで入るなら……。仲直りのお風呂、入りましょう……？」

ニ 音声編集時に間を空ける。+ちやぼん……という水音 S E 入れる。

cha0107 セラ 「ね、ねえ、あんまりくっつかないでちょうだいっ……」

cha0073 ウイル 「しょうがないだろ、狭いんだから」

cha0108 セラ 「なんですって！？ 人んちのお風呂を狭いだなんて！ って、あああっ……私ったら、またつまらないことで怒っちゃったわ……反省」

cha0074 ウイル 「照れ隠しなんだろ、わかってるから大丈夫だって。何年幼馴染やっと思ってるんだ」

cha0109 セラ 「ウイルスは……子供の頃からずっと、優しいままよね。どんな私も受け入れてくれる……。ねえ、ほんとうにこんな私で、いいの……？」

cha0075 ウイル 「俺はガキの頃からずっと、結婚するならセラ以外考えられなかった。そういうセラだって、俺でいいのか？」

cha0110 セラ 「私だって、同じよ！ ウイル以外の男の人なんて目に入らないわ。全部、ウイルスに捧げたいの。私の心と体も、未来も、全部……」

cha0111 セラ 「……ねえ、そっち向くから、ウイルスも……お願い？ ……ちゅっ。仲直りのお風呂は、キスまでがセットだったわよね。あの頃は、ほっぺに、だったけど」

cha0112 セラ 「ん……タオルで隠してるとはいえ、裸なんだし……やっぱり向き合うのは恥ずかしいわね。……う、ん……ウイルス、あったかい」

cha0113 セラ 「……ねえ、ウイルス……明日から一緒に暮らさない？ 一日でも早く、ウイルスと一緒に生活をしたいの」

cha0114 セラ 「……それで、もう……キス以上でもいいんじゃないかって思うんだけど………？」

cha0076 ウイル 「一緒に住むのは賛成だ。でも、キス以上は式が終わってからにしよう」

cha0115 セラ 「むう……ウイルスだって、ほんとにもう我慢できないんじゃないの？」

cha0077 ウイル 「好きな女を抱きたいと思うのは、男として当然の感情だよ。でも、セラが昔言ってたから。そういうことは、結婚をしてからにしたいって」

cha0078 ウイル 「俺も、そうしようって答えたんだ。だから……験担ぎじゃないけどさ、二人で交わした約束を、ちゃんと守りたいんだよ」

cha0116 セラ

「……ウィル……あなたのそういうところ、大好きよ……んっ……はぁ……くらくらしてきた……」

cha0079 ウィル

「のぼせちまったんじゃないか。もう上がった方がいい。明日からこの家に住むことは、朝イチで姉さんに話しに行くから。……セラ、愛してるよ」

cha0117 セラ

「……私も、愛してるわ、ウィル。……じゃあ先に上がるわね。バスタオル、置いておくから」

cha0080 ウィル

「おう、ありがとな。……セラ、いい匂いだっとな。っ……だめだだめだ！ はぁ……俺ものぼせちまった……」

cha0081 ウイル

「姉さん、今日からセラの家で暮らすことになったんだ」

cha0089 アイシヤ

「そっか、いよいよこの時が来ちゃったか。ちょっぴりさみしくなるなあ」

cha0082 ウイル

「近いんだから、いつでも会えるよ。セラと一緒に遊びに来るしさ」

cha0090 アイシヤ

「そうね、私も遊びに行っちゃおうと。とにかく、幸せな家庭を築くのよ。お幸せにね」

cha0083 ウイル

「姉さんだって俺の大切な家族だ。何かあったらいつでも助けに来るから」

cha0091 アイシヤ

「うふふ、ありがとう……ウイルス。じゃあさ、さっそくお願い聞いてくれる……？」

【収録メモ】次の文章のみ。モノローグでお願いします。

cha0084 ウイル (M)

「ジスニアに届け物をして、とあることをしてほしい。そう姉さんに頼まれた俺は、早速ジスニアの元へと向かった」

cha0085 ウイル

「ジスニア。姉さんから本の届け物だ」

【収録メモ】かなり焦って下さい。

cha0082 ジスニア

「っっ！？ あ、ああありがとうございます！ 早急に渡してくれませんか！？」

cha0086 ウイル

「今開けて読み上げてやるからな」

cha0083 ジスニア

「ええっ！？ ちょっ、まっ……！」

cha0087 ウイル

「えーと、魅力的な女子になるには……だってよ！」

cha0084 ジスニア

「いやあやめてええええええっ……！！！」

cha0088 ウイル

「なっ、なんだいきなり大声上げて!？」

cha0085 ジスニア

「ひどいです……！！！！ ウイルっ、なんでこんなことをするんですかつ!？」

cha0089 ウイル

「いや、姉さんに言われたとおりのことをしたんだけど!？ 本のタイトルを読み上げてあげてくれって……！」

cha0086 ジスニア

「く……!？ そういうことですか！ あの人はほんとうにもう……！」

cha0090 ウイル

「??？ どうしたんだ? ……魅力的な女子になるには、この本になんかあるのか?」

cha0087 ジスニア

「ああっ！ だから読まないでください……！！！」

cha0091 ウイル

「うおっ!？ わかった、うん、いや、わからないけど、悪かった。……でも、ジスニアはもう十分魅力的なのに、何のためにこんな本読むんだ?」

cha0088 ジスニア

「……え? 私が、魅力的……? ほ、本気で言ってますか……?」

cha0092 ウイル

「ん? 嘘なんかつくわけないだろ」

cha0089 ジスニア

「……………私、時々、堅いと言われるてしまつて……。どうしたらいいかわからなかったのでアイシヤに相談したら、本を読んでみることを勧められたんです」

cha0093 ウイル

「へええ……じゃあ、他にもこういう本読んできたのか？」

cha0090 ジスニア

「え、はい……まあ……そこそこ、ですね」

cha0094 ウイル

「たとえば、どんなタイトルの？」

cha0091 ジスニア

「えっ……えつと……明るく爽やかになるための修行……とか」

cha0095 ウイル

「ほお、どんな修行するんだよ」

cha0092 ジスニア

「どんなつ？ えつと……鏡の前で口角をあげて——つて……！！　なんで言わせるんですかあああ……！！」

cha0093 ジスニア

「いいですか、ウイルス！？　女性には誰だって一つや二つ、知られたくないことがあるんですよ……！！　このことは念頭に置いてください……！！」

cha0094 ジスニア

「あと、この際なので伝えておきますっ。セラの夫になるわけですから、何があつても、セラだけを見つめてあげて下さいね……っ？」

cha0096 ウイル

「うん……それは、もちろんだよ。とにかくもう、こういう本は読まなくていいんじゃないか？　俺は、今のままのジスニアがいいと思うぜ」

cha0092 アイシヤ

「うんうん、私もそう思うわ」

cha0095 ジスニア 「アイシャ……っ!？」

cha0093 アイシャ 「うふふ、悪戯大成功。ウィルもぐろうさま。ねえねえ、セラが呼んでたわよ、行つてあげて」

cha0097 ウィル 「お、おう。ありがとう姉さん。じゃあ、ジスニア、またな！」

cha0096 ジスニア 「……ウィル! ……本当に、ありがとうございます。その……嬉しかったです」

cha0098 ウィル 「いって」とよー」

cha0094 アイシャ 「……………ごめんね、ジスニア。ちょっとやりすぎちゃったかしら」

cha0097 ジスニア 「まったくですよ……。アイシャは時々、突拍子もないことをしますよね」

cha0095 アイシャ 「他に方法が思いつかなかったのよお。どうしたら、ジスニアは今のままでいって気づいてくれるかなって」

cha0096 アイシャ 「確かにこういう本を薦めたのは私だけど、ここまでかじりついちゃうなんて思わなかったからね」

cha0097 アイシャ 「でも、もう大丈夫かなって思ったわ。夫としてセラのこと見つけてあげて、なんて……とってもいい子だわ……よく頑張ったわね」

cha0098 ジスニア 「……アイシャ、聞いてたんですね」

cha0098 アイシヤ 「え〜？ 当然でしょ〜」

cha0099 ジスニア 「っ！ もう……！」

cha0099 アイシヤ 「まあまあ！ というわけで、そんなジスニアには、私の膝枕をプレゼントしちゃおうかな〜？」

cha0100 ジスニア 「膝枕……？ 頑張ってるご褒美に、癒しの魔法をかけてあげたいと思って……とか言うつもりですか？」

cha0100 アイシヤ 「ご名答！ さすが私のことよくわかってくれてるなあ〜、嬉しいわねえ、ふふ。さあ、おいで〜」

cha0101 ジスニア 「素直にお言葉に甘えてみます。んしょ……ん……なんだか不思議な気分ですね」

cha0101 アイシヤ 「ふふ……私にとっては、セラもジスニアも可愛い妹なのよ。いつでも甘えていいんだからね〜」

cha0102 ジスニア 「アイシヤ……ありがとうございます」

cha0102 アイシヤ 「うふふ、どういたしまして。……ふわあああ〜。今日はお日様がぼかぼかで気持ちがいいわ……。こんな日がずっと続くといいわね〜……」

cha0103 ジスニア 「そうですね……。子供たちの楽し気な声も、心地が良いです……これからずっと、この穏やかな日々を守っていかないと……ふあ……あふ」

cha0103 アイシヤ

「あら、眠くなってきたやつた？ このままちよっとお昼寝したら？」

cha0104 ジスニア

「ん……そう、ですね……この眠気には敵いそうにないです……少し、寝かせてもらいますね……ん……くう……すう……」

cha0104 アイシヤ

「くすくす、もう寝ちゃった。……これから何があろうと私たちは……姉妹であり、大切な仲間だからね。おやすみ、ジスニア……」

【収録メモ】以下、モノログでお願いします。

cha0105 アイシヤ (M)

「私の守るべきものが、ここにはたくさんある。ジスニアも、セラも、そしてウィルも……」

cha0106 アイシヤ (M)

「この愛しい人たちのためなら、私は自分を差し出してもかまわない。どんな手を使っても、いつまでもこの幸せを守り抜く——」

＝▼ G0004 求められる快楽に馴染んでいく

【収録メモ】 堕ちた後の事後です。嬉しい感じです。

cha0105 ジスニア 「はあ……はあ……はあ……ん、はあ……」

【収録メモ】 以下、モノログでお願いします。

cha0106 ジスニア (MF) 「街の近くに根城を作っていた山賊は、戦士団の活躍でこの地を去った……それは、真実ではありません」

cha0107 ジスニア (MF) 「戦いの中で、山賊の長であるクローズに捕らえられたジスニア・ベルツール……私は、次第に身も心も囚われ、肉奴隷と化しました」

cha0108 ジスニア (MF) 「初めてを奪われる時は恐怖と憎しみでいっぱいでしたが、クローズ……いいえ、ご主人様の行為は優しくて、とても淫らで、繊細だけど猛々しくて……っ！」

cha0109 ジスニア (MF) 「私はあつという間に……女の悦びを覚えてしまったのです。でもご主人様は、私だけでは満足してくれませんでした」

cha0110 ジスニア (MF) 「因縁の相手である戦士団と、その団長であるセラに異常なまでの執着心を抱いていたのです」

cha0111 ジスニア (MF) 「要求に従い単身、私を助けにきたセラに、ご主人様はある取引をもちかけました」

cha0112 ジスニア (MF) 「山賊達は町から手を引き、なおかつ私を解放する。その代わりに町の外れの山小屋にセラを通わせて、その身体を自由にする」

cha0113 ジスニア (M) 「この取引を反故にした場合、私は自害するように言われたのです。……逆らえない、  
というより、逆らうつもりはない」

cha0114 ジスニア (M) 「だって、私の愛しい人からの命令だから……」

cha0115 ジスニア (M) 「そしていいよ、約束の刻限がやってきたのです——」

【収録メモ】以上、モノログ終了です。  
≡ 音声編集時、ここに間を入れる。

cha0116 ジスニア 「あふあつ、あおおつ、んうううつ、ご主人様のおちんぽおつ！ ああつ、きもちいい  
いいですうううつ、んうううつ、あふあああつー！」

cha0117 ジスニア 「あつ、あつ、あつ、あひいいつ、んやあああああああ、もつとおおお  
っ！……！」

cha0118 ヤリ 「ジスニア……あ、あ……どうして、どうして？ ねえ、お願い、正気に戻って……」

cha0118 ジスニア 「んうつ、ふううう……あつ、あつ、あああつ……何を言っているのですか、セラッ、  
あふつ、私は正気ですよお？ あつあつあつ、これえ……いいですううつ」

cha0119 ジスニア 「んうあつ、んあつ、あふうあつ、ああつ……セラあ、ちゃんと見て下さいねつ、私の  
おまんこに、おちんぽがずぼずぼしてるところつ、ああつ、あつ」

cha0120 ジスニア 「はひっ、ひいっうううっん、見られたら、私、興奮しちゃうんですうつ、あつ、もつ  
と気持ちよくなっちゃうんですううううつ、ひっ、ひうあああつ」

cha0121 ジスニア

「うううんっ、たまら、ないいつ、ああああっ、あん、あんっ、あんっ！ ご主人様  
も興奮してるんですね、あっあああっ」

cha0122 ジスニア

「あああっ、そんなに激し、く腰を突き上げて、あっ、あっ、ああんっ、ふあっ、あ、  
あっ、すーいつ、あああっ、んうあ、おああんっ！」

cha0119 セラ

「っっっッうう……ジスニアあああ……！」

cha0123 ジスニア

「あああっ、あっ、ふお、あっ、ああっ、イクっ、あっ、ご主人様のおちんぽで、私、  
イキますううううっ！ んあうあああああああ……！……！」

cha0124 ジスニア

「ああっ……あふっ……ふうう……はあ……あは、あああ……精液いい……私の中に、  
注がれてるうう、んうっ、ああ………」

cha0125 ジスニア

「はあ……はあ……ありがとうございます、ぐざいました……、気持ちよかったですう……」

cha0120 セラ

「……ジスニア、あなたが……こんなこと、する、なんて……」

cha0126 ジスニア

「ふうう、ふう……こんなことお……？ セックスですかあ……？ ご主人様と私のラ  
ブラブな子作り……どうでしたかあ……？」

cha0127 ジスニア

「……んふふ……ふあ……ふう……はあ、はあ……お待たせしましたセラ……次はあな  
たの番です」

cha0121 セラ

「……っッ！？ そんなエッチなこと、しなきゃいけないのっ……！？」

cha0128 ジスニア

「もちろんです。あなたにもこの気持良さを知ってほしいから……。でも主人様は優しい方なんです。あなたのことを思って、どちらかにして下さるそうですよ」

cha0122 セラ

「……え、どちらかって、なにが……？」

cha0129 ジスニア

「上の口と下の口、どちらを主人様に捧げますか……？」

cha0123 セラ

「っ、はぁ……ー？」

cha0130 ジスニア

「どちらか一方の穴にしか手を出さないと約束して下さいるそうです」

cha0124 セラ

「っっー？ そんなの、どっちもイヤにきまつてるじゃないっ！」

cha0131 ジスニア

「あら、じゃあ約束を違えるということですね？」

cha0125 セラ

「待って、そういうわけじゃ……！」

cha0132 ジスニア

「ああ、そういえば、セラにはウィルがいました。であれば私、こんなことを聞いたことがありませんよ」

cha0133 ジスニア

「娼婦はどれだけ身を許しても、唇と口だけは、愛した男にのみ捧げるそうですよ？」

さぁ、どちらを選びますか、セラ」

cha0126 セラ

「……………へっ、っ…………っ、下、について……………」

cha0134 ジスニア

「そうですよね！ じゃあまずは、避妊薬を飲ませてあげます。毎朝これを飲むようにして下さい。そうすれば子供ができることはないですからね……ふふふ」

cha0127 ヤラ

「は……ん、んくっんくっ……」

cha0135 ジスニア

「いい飲みっぷりです。では、ご主人様をしっかり受け入れられるように、色々と教えてあげます。まずはオナニーの仕方を、ね……」

cha0128 ヤラ

「お、おなう……んっ」

cha0136 ジスニア

「自分の指で自分のアソコをいじることです。したこと、ないんですか？」

cha0129 ヤラ

「そ、そんなこと……！ するわけないじゃない……！」

cha0137 ジスニア

「ふっふふふ……そうですかあ……。まあどちらでもいいです。まずは、おっぱいを触りますね」

cha0130 ヤラ

「ふあっ……ん……こんなことくらいで、気持ちよくなんなってならない、わよう……」

cha0138 ジスニア

「くくくす、そうですか？ その割に、硬くなってきましたよ、乳首」

cha0131 ヤラ

「ひゃううううっ……！ あっ、ああっ……何、この、感覚ううっ……！ おっぱい、ビリビリするなんて、おかしいっ、あああっ……身体、が……ああっ……」

cha0139 ジスニア

「んふふふ、温まってきたようですね……」

cha0132 セラ

「んんっ……んんっ……、ああ、つやめて、そんなに、おっぱい、いじらないで……！ あんっ……」

cha0140 ジスニア

「おっぱいはやめてほしいんですかぁ……？ そうですかぁ。じゃあ、足を広げて……ほら、ご主人様が見てますよ」

cha0133 セラ

「あああっ……やだ、あっち向いてよぉ……！」

cha0141 ジスニア

「セラったら、わがままな子ですね。そんな悪い子にはおしおきです」

cha0134 セラ

「んんんんうっ！ あああっ、あああっ、あん、んんっうううっ……！」

cha0142 ジスニア

「今、私が触っている突起物、なんていうところかわかりますか？」

cha0135 セラ

「あっ、あっ、んっ、くうう……ふ、あ、あ、わからないいいっ……あん、あん、んあっ……」

cha0143 ジスニア

「ええ、本当ですか？」

cha0136 セラ

「はあうっ……んん、んああっ、ほんとに、しらないのおお……つやああっ……あああっ……はうううっ……あ、あ、あっ」

cha0144 ジスニア

「その様子じゃほんとに知らないみたいですね。クリトリスっていうんですよ。ほら、言ってみてください」

cha0137 セラ

「んんう……や、そんなの言いたくないっ——あああああっ、あんっ、あんっ、あああ  
あっ、やああ言うからあっ、やめてええっ！ あああっクリトリスううううっ！」

cha0138 セラ

「あ、あ、あ、やだっ、そんなにいじられたらあ……あああああっ、あっ、イクうっ！  
イクっ！ このままじやイっちやうううううっ！—」

cha0139 セラ

「ひあああああああっ……！」

cha0140 セラ

「はううっ……ふうっ……は、はあ……うあ……ああん……ああ……はあ……うう……  
んん……」

cha0145 ジスニア

「セラ、イっちやっただんですか？」

cha0141 セラ

「はあ、はあ……イっちやっただ……はあ……」

cha0146 ジスニア

「あら、イクってこと知ってるんですね。なんでオナニーしたことないのに、イクこと  
を知ってるんですう……？」

cha0142 セラ

「んんっ……！ あ、ああ……そ、それは……あ、あ……やあ……」

cha0147 ジスニア

「くすくす、大丈夫ですよ、わかってましたから。幼なじみじゃないですか、私たち」

cha0143 セラ

「くっ……う……なんなのよ……ふ、ううう……」

cha0148 ジスニア

「だって、ウィルともまだエッチしてないんですもんね？ 欲求不満になるのも仕方な  
いです。ウィルったらひどい男ですね」

cha0144 セラ

「っっ……！ 違う！ 二人で約束したことだもの、結婚式を挙げるまでは……そういうことはしないって……だから、ウィルは私のことを思っ……！」

cha0149 ジスニア

「そうでしょうか？ 本当にあなたのことが好きなら、ガマンなんてできないと思いますけどね？」

cha0145 セラ

「なにを言うの……？」

cha0150 ジスニア

「こんなに魅力的なセラに手を出さないなんて……私ならどうするか教えてあげます。セラ、イキまくりましょう」

cha0146 セラ

「ふええ……？ ひあっ！？ やっ、やああああっ……！ だめ、今は、敏感になってるからあ、中に指入れないでええ……ふああああっ、あ、ああああっ……」

cha0151 ジスニア

「あああっ……セラのエッチな汁がどんどん溢れてきてますよお」

cha0147 セラ

「いやっ、だめ、指はだめなのおお……ああっ……ああああ……やあ……んんっ、んううう……」

cha0152 ジスニア

「一人でするときは、指は入れていないんですか？」

cha0148 セラ

「あああっ……だって、処女膜が、ああ……破れちゃったら……んん……だめだからあ……怖くて……ふあ、ん……」

cha0153 ジスニア

「くすぐすつ、どこまでも健気なんですね。でも、安心して。私はあなたの処女膜は破らないですから」

cha0154 ジスニア

「どうです？ クリとアソコを両方責められて、いつものオナニーとどう違いますか？」

cha0149 セラ

「どうって……あ、あ、あふ、そんなっ……ああつ、感じ過ぎちゃううう！ やあああああつ、イクっ……！ ふああああああああつ……！！！！！」

cha0155 ジスニア

「ほら、まだイケますよセラ！」

cha0150 セラ

「んんんっ、んん、んあああつ、はううつ、あ、だめ、だめ、だめえええ……っ！  
あ、あ、あ、あつまた、イっちゃうううう……ふええええええええっ！！！！！」

cha0151 セラ

「あ、あああつ……んっ、んふううつ……っふ、……はひ……は、はあ……はあ……ああ……もう、だめえ……はあ……」

cha0152 セラ

「このままじゃ、私……ああ……はあ……死んじやうう……ん……ふうう……はひ、ひひ……」

cha0156 ジスニア

「うふふ……連続絶頂って最高じゃないですかあ？ まだまだこれからですよ！」

cha0153 セラ

「やだっ、ジスニア、やめてえっ……休ませてえ、あふ……はあ、はあ……くっ……うう……さつきから身体がおかしいの……」

cha0157 ジスニア

「ああ、薬のおかげですかね……？」

cha0154 セラ

「さっきの薬、なんなの……ああ……絶対何か、変なのが入ってるでしょ……！」

cha0158 ジスニア

「本当に避妊薬ですよ？　ただ、副作用があるのが玉にキズかもしれませんがね、ふふふ」  
「」

cha0155 セラ

「くうう……う……これを毎日飲むなんて……絶対に、いやよ……！」

cha0159 ジスニア

「飲まなかったら子供がでちゃいますよ？」

cha0156 セラ

「んっ……う……ううう……そんなの、もつと、いや……！」

cha0160 ジスニア

「ではおとなしく飲むことです。大丈夫、ご主人様は約束は守ってくださいます。ウイ  
ルにもバレないようにしますよ、絶対にね。くすくす……」

cha0161 ジスニア

「さあ、十分に休憩できましたよね？　続きをしましょうねっ」

cha0157 セラ

「いあっ……！？　あああ、んふううああっ、さっきよりも激しいっ！　あっあ  
あ、あっあ、ふああああああっ！？」

cha0158 セラ

「あっああああっ、や、やあああ、また、きちやうっ、あああっ、あんっ、あっふああ  
ああああああああああんっ……！」

cha0162 ジスニア

「気持ちいいですか？　気持ちいいですよね？　もつともつですよね！？」

cha0159 セラ

「あひいっ！　そんなにしたら処女膜破れちゃうううううっ！　やっ、やっや  
めてええええっ！　ああああああああああああっ……！」



cha0107 アイシヤ 「……っ！ セラっ！？ 一体何をしたの！？」

cha0167 ジスニア 「ひどいことはしていません。気持ちよすぎて意識を飛ばしちゃっただけですよ。さあ、アイシヤ……わかっていますね？」

cha0168 ジスニア 「おっぱいでおちんぽを挟みながら、口でしゃぶってください」

cha0108 アイシヤ 「……………言うとおりにすれば、セラとジスニアにはひどいことをしないのよね……っ」

cha0169 ジスニア 「ふふふ、しませんよ。安心して下さい。そうだ。始める前に、この避妊薬を飲んでくださいね。同じ物を先ほどセラも飲んでますから」

cha0109 アイシヤ 「……………これって……………本当に避妊薬なの？」

cha0170 ジスニア 「疑り深いですねえ。私も飲んでいます。ほら、赤ちゃんはできていないでしょうっ。うふふ」

cha0110 アイシヤ 「……………ジスニアっ、あなたそこまで……………わかった、飲むわ。んくっ、んくっ……………」

cha0171 ジスニア 「これから、毎朝飲むようにしてくださいね。継続しないと避妊できないですからね。では……………始めてもらいましょうか」

cha0111 アイシヤ 「……あ、ああ……これが、男の人の、なのね……」

cha0172 ジスニア 「固くて、大きくて、たくましいですよね……惚れ惚れしてしまいます……。さあ、早く挟んで……」

cha0112 アイシヤ 「んっ……ふっ、ああっ……すごい、熱い……」

cha0113 アイシヤ 「ん……ん……くぅ……んぅ……こ、こう、すればいいのかしら……。？ ふっ……んっ……ん、んっ……はあ、すごい、まだまだ大きくなっていく……」

cha0114 アイシヤ 「ん……ちろっ……ぺちやつ、んふうっ、ぺろ……ちゅふっ、ぺろ……んっ……んぅ……初めての、味……んっ、ぺろ、れるっ」

cha0115 アイシヤ 「あむ……んむぅうう……じゅるるっ、ちゅうっ、ちゅっ……っほ、ふ……んぢゅっ、ちゅうっ……んふむっ……」

cha0173 ジスニア 「んふふ……いんですよ、もっと激しくしゃぶって。あふれ出た汁も、しっかり吸い上げるんですよ」

cha0116 アイシヤ 「んううっ……じゅるるっ、れるれるるっ、ふあ、ぢゅふっ、んん、ぢゅふふっ、んっ、んじゅぼるうっ、んううっ、んうっ、ぢゅるるっ」

cha0117 アイシヤ 「んんっふっ、ふっ、ぢゅふあっ、な、なにっ？ びくびく動いて、膨らむきたあひ……！ んあむっ、じゅうっ、んんっ、ん、ふっ、ぢゅるるっ、じゅふっ」

cha0118 アイシヤ 「っんん！？ んっ、んっ、んっんうううううっ！っ！っ！」

cha0174 ジスニア

「ああっ、一滴もこぼしてはいけませんよ！ ご主人様の注いでくれた精液なんですか  
ら……！ 全部飲み干してください！」

cha0119 アイシヤ

「んっ、んっ、んくうっ、んくっ、んくっ……………んぷはっ……………はぁ……………はぁ……………うう  
ぁ……………ぁぁ……………これが、男の人の、精液い……………ふぁぁぁ……………」

cha0175 ジスニア

「ういふふふふ、初めてにしては上出来ですよ！ さすがアイシヤですよ！」

cha0176 ジスニア

「ああ、ご主人様、出したばかりなのに、おちんぼがピンピンです。ふぁぁっ……………っ。  
アイシヤ！ 今すぐ四つん這いになって！」

cha0120 アイシヤ

「……………きゃあっ！ な、なにっ！？」

cha0177 ジスニア

「アイシヤの処女喪失は、バックからにしましょう！ ご主人様っ。この大きなおし  
りにたくさん腰を打ち付けてくださいっ！」

cha0121 アイシヤ

「ひ、ぁぁ……………この格好……………ワンちゃんみたいだわ……………セックスってこんな格好でする  
ものの……………？」

cha0178 ジスニア

「アイシヤもこれから色々知っていくんですよ。さぁ、ご主人様あっ」

cha0122 アイシヤ

「ん、んんっ……………ぁぁあっ、男の人の、入ってきたあっ……………ぁ、んっ……………何これえ……………  
ん、ぁ、ぁ、くう……………ん……………んん……………っ」

cha0123 アイシヤ

「あぐうっ、ふ、ううう……………一番奥に、届いちゃったぁ……………ぁぁぁ……………す、すごおい……………  
……………んんううっ……………」

cha0124 アイシヤ

「あ、あれえ……？ 初めてのセックスって、ふう、んん……痛いんじゃないの……？ まったく、痛くないわ……はあ、はあ……」

cha0179 ジスニア

「ふふふ、あつという間に飲み込んでしまいましたね。痛くないのは、ご主人様がお上手なのもありますが、アイシヤがエッチだからじゃないでしょうか」

cha0125 アイシヤ

「はあ、ん……そうなのかなあ……あ、ああ……私、エッチなのかしらあ……こういうの、ほんと、わからないから……ふ、ううううつ、あんつ、あ、あああゝつ……」

cha0126 アイシヤ

「あつあ……あううう……ひやあ……ん……んんうう……ああつ……んんうつ……は、はあん、あ、あ、気持ちいい、すゝい……ああつ、あふつ……んんつ……」

cha0180 ジスニア

「さすがはアイシヤ！ これぞ、男を惑わす肉体ですねつ。あなたは、生まれながらに淫乱な女なんですよ」

cha0127 アイシヤ

「うううつ、んん、ん、うううあつ……そんなことない、もん……？ あつ、あつ、淫乱じゃないもん……つ、ああ、あつ、あ、あああんつ……」

cha0128 アイシヤ

「ひあつ！ あんつ、あんつ、エッチな声、ふうああつ……いっぱい出ちゃううつ……あああつ、あんつ、あああつ……ふあああつ……」

cha0181 ジスニア

「はち切れそうなおっぱいがばゆんばゆん揺れて、おしりも波打ってる！ こんな風に、ご主人様を誘惑するだなんて……！ ん、ふううつ……」

cha0182 ジスニア

「ほんつとにどスケベですね、アイシヤは！ はあ、はあつ……そんなの見せつけられたら……私も、したくなっちゃうう。はあああつ……指、止まらないいいつ……」

cha0129 アイシヤ

「はあああつ、ああつああつ、あああんつ、私いいつ……そうなのお？ エッチなの  
お……？ はふう、ん、ん……どスケベなのお……？ んんつ……」

cha0130 アイシヤ

「あ、あうつ、うつ、くううつ……あつ、あつ、あうああ、ふううつ……ああ、はあう  
うう、んんつ、ああつ、あああつ……！」

cha0131 アイシヤ

「うううつ、ううつ、はあつ、はああつ、さつきみたいにつ、んつ、中で、震えてるう  
つ、あんつ、なにいいっ！？ あんつ、なんか、くるうううううつ……！」

cha0132 アイシヤ

「ああつ、あつ、ああつ、ひあつ、あ、やつ、やあああああああああああああああ  
ああつ……！……！」

cha0133 アイシヤ

「あううつ、うううつ……うううつ……ああ……中あ……熱いのが、中に流れてくる  
う……私もおお……ビクンビクンしちゃううつ……」

cha0134 アイシヤ

「身体が……ああ……あつ、あつ……力が入らないいい……ふああああああん……  
私、どうしちゃったのお……？」

cha0135 アイシヤ

「はあ……はあ……アイシヤ、それがイクってことですよ……ん、ああ……私も、イッ  
ちやいましたあ……」

cha0184 ジスニア

「い、これがあ……はあ……ああ……はあ……はあ……あ……あれ……？  
私、待って、こんな風になるなんて、普通じゃない……やつぱりあの薬……変なの……  
…」

cha0184 ジスニア

「くすくす、さっきのが本当のあなただと思いますよ？」

cha0136 アイシヤ

「ああ……そんな、違うもの……私は、こんなこと初めて、で……」

cha0185 ジスニア

「ありのままがいいんですよ……」

cha0137 アイシヤ

「はあ、はあ……ん、ふうう……」

cha0186 ジスニア

「さあ、まだまだこれからですよおー」

cha0138 アイシヤ

「んん……はあ、そんな、私、もうへろへろ——んんんううっ、ふふうああっ……！……？

あっ、あっ、あっ、あああああああああ〜！？」

【収録メモ】以下、モノローグでお願いします。

cha0165 セラ (M) 「今日も山小屋に呼び出され、ジスニアの愛撫で執拗に責められる。でも今日は前と違った」

cha0166 セラ (M) 「絶頂を迎えそうになると手を止められてしまい、私は……頭がおかしくなってしまうそうだった——」

【収録メモ】以上、モノローグ終了。

cha0167 ジスニア 「はあ、はあ……セラ、イキそうですか？」

cha0167 セラ 「あんっ、あっ、あっ、あああっ……う、うううっ、きちやう、ううううっ……」

cha0168 ジスニア 「くすくす、ダメですよお？」

cha0168 セラ 「あああっ……ああ……どっし、てえ……もう、もう許してよおお……」

cha0189 ジスニア 「ふふふふふふ、はあ……なあ、これで一旦おしまいます」

cha0169 セラ 「んあっ……！？ は、っふ……やああ……私、まだあ……」

cha0190 ジスニア 「まだ、なんですか？」

cha0170 セラ 「っ……！ な、なんでもない……」

cha0191 ジスニア

「これから別の予定があるんです。その間隣の部屋で待機していて下さい、セラ」

cha0171 セラ

「ん、んう……別の……予定い……？　なに、をするのお……？」

cha0192 ジスニア

「気になりますか？　……少し、扉を開けておきますから覗いておくといいかもしれません、くすくす」

cha0172 セラ

「ああっ……じ、ジスニア、待って……。私、ほんとに、このまま放置されちゃうの……？　はあっ……はあ……そん、なあ……んん、ううう……」

【収録メモ】次の文章のみ、モノローグでお願いします。

cha0173 セラ (M)

「避妊薬の副作用が私の身体を火照らせる。絶頂したくてもできなかったもどかしさが、身体の奥でくすぶっている」

cha0174 セラ

「はあ……はあ、ん……だめ、ガマンしなきゃ……んんんっ……。耐えるのよ……く……ふう、ん……」

cha0175-a セラ

「んん……戦士団で戦ってきた苦しみ比べたら……、なんてこと、ないわよ、こんな のっ……はあ、はあ……」

【収録メモ】次の文章のみ、モノローグでお願いします。

cha0175-b セラ (M)

「襲いかかる欲望を必死で押さえつつ、私は唇を噛みしめながら扉の向こうの様子を伺うのだった——」

cha0193 ジスニア

「入って来て下さい」

cha0139 アイシヤ

「……失礼します」

cha0176 セラ

「っ……!?! アイシヤ……!?!」

cha0194 ジスニア

「アイシヤ、今日も何をするかわかっていますよね?」

cha0140 アイシヤ

「わかってるわ……。約束、守ってね」

cha0195 ジスニア

「もちろんです、さあ」

cha0141 アイシヤ

「……ズボン、脱がすのよね。……ああっ……膨らんでるの、パンツ越しにわかるわ…  
…。んっ……ふあああっ……男の、匂いがする……」

cha0142 アイシヤ

「あむっ、れるっ、ぢゅ……ん、んう……ぢゅぽ、ぢゅぽ、れる、れる……ふぅっ、じゅむっ、じゅぶ、はふ、ん、んっ、んう、ぢゅっ」

cha0177 セラ

「アイシヤ……な、なにをして……るの……?」

【収録メモ】次の文章のみ、モノローグでお願いします。

cha0178 セラ (NM)

「アイシヤが、突然あいつの下着を脱がしたかと思うと、男性器を咥え始めた——。その姿に私は動揺を隠せなかった」

cha0143 アイシヤ

「えるっ……れる、れる、へろっ、れろっ……ふぅう……はあ、えるるるっ……ぢゅっ  
……えるえう……へろ、へろおっ……」

cha0144 アイシヤ  
「んうう、やつぱり、固くて、大きい……んっ、ぢゅっ、れろえろっ、じゅぼっ、ぢゅぶ、……んちゅうっ、ん、はあっ……」

cha0145 アイシヤ  
「ふあむっ……るれっ、んぷっ、ちゅぼっ、んん、ちゅ、ちゅううぢゅうっ……ふえ  
るっ、れろるっ……んぷっ、ちゅぼっ……」

cha0146 アイシヤ  
「んああっ……口の中で、どんどん、膨らんでるわ……はあ、ああっ……れろ、れろろ  
っ……ちゅ、ちゅぼ、ちゅばあっ」

cha0147 アイシヤ  
「んんっ、んちゅぶっ、んあ……じゅるっ、じゅぼっ……んんあっ、こうすれば、気持  
ちいいかしら……？　じゅるるっ、んむっ、ぐぼっ、ぶぼい……」

cha0148 アイシヤ  
「んっ、ん、んむう、んっ、ぢゅ、んぷっ、ぢゅう、っじゅっ、れろ、えるるるっ、  
んっんんっ、んぶうっ……！ー！」

(射精)

cha0149 アイシヤ  
「ふはああああああっ……！ー！　んはあっ……ああっ……噴水みたいに飛び出てっ  
……あああ……顔に熱いの飛んでくるうう……はあ、はあああん……」

cha0150 アイシヤ  
「ん……へろっ。ああ……やつぱり、この味……、んぶうう……苦くて濃い……へろ  
っ、んっ……へろっ」

cha0151 アイシヤ  
「はああ……あれえ？　大きいままよ、これ……。んゝ……もう一度？　わかったわあ  
……あむっ、じゅるう、じゅぼぼっ、んっ、ちゅっ、ちゅっ……ぶうっ」

cha0179 セリ 「アイシヤ……どうしてそんなにおいしそうに舐めるの……？ はあ、はあ……あ……わ、たし……」

cha0180 セリ 「はあ……だ、だめ、私……手が勝手に、あそこに……ひっん……やだ……ぐちゃぐちゃに濡れてる……ん、んう……」

cha0181 セリ 「いやあ……、手が止まらない、よお……。んっ、んあ……これは……そ、うよ……薬の副作用のせいだわ……。あ、あんっ……」

cha0182 セリ 「んくう、ん……私のせいじゃ、ないもの……。あっ、あっ……はうあ……ううづ」

cha0183 セリ 「あんっ、ううっ……やだ、きもちいい……はあ、あはあ……んんっ……あん……あ……あ、あああっ、アソコでいっぱい感じちゃう……」

cha0184 セリ 「あっ、あっ……私……はあ、んん……はあ、はああ……ん、んふあっ……あんんっ……」

cha0185 マイシヤ 「んぢゅっ、んんっ、れろっ、んはあっ、いやらしい匂い、んううっ、ふう、ぢゅ、ぢゅぢゅぱあっ……いっぱい……んっ、じゅぽっ、ぢゅがっ、んんっ、じゅぽっ」

cha0186 セリ 「あ、あああっ……う、うう、んっ……すい、いい……あんなにじゅぽじゅぽ啜えてっ……はあっ、あ、ああっ、あんっ、あああっ……」

cha0186 セリ 「んあっ、あっ、あっ、あそ」……指でずばずばするのっ……ああっ……きもちいいよお……止まらない、んっ、あっ、ああっ……あああああっ……」

cha0153 アイシヤ

「れるれろっ、れるうっ、んん、ぢゅぶ、ぢゅぽっ、んんむっ、んあ、震えてきたあ、あ、あ、いいわ、出してっ……んあっ、ぢゅぢゅぢゅるうっ、じゅぽぢゅぽっ」

cha0187 ヤラ

「いやあっ、あん、あうっ、んん……んっ、ああっ、……私もびくびくきちやううっ……イク……私イっちゃうう……」

cha0154 アイシヤ

「ぢゅぶっ、んっ、ふうっ、れるれるろ、ぢゅぽぢゅぽっ、ふっ、じゅっぽっ、じゅぢゅ、ぢゅぽっ、んうっ、ん、ん、んんんんんんんっ……!」

cha0188 セラ

「あっ、あっ、ああああっ、ひああっ、いつ……イクう、イクッ……イクうううううううううううんっ……!」

cha0155 アイシヤ

「んふうああっ! あっあ、あっああああああっ……! ビュービュー出てるううううううう……!」

cha0189 セラ

「ああっ……あふう……ん……はあっ、はあっ、はああ……ああ……」

cha0156 アイシヤ

「はあ、はあ……まだ固いままよお……んうう……まさか、また前みたいに……? くっ……」

cha0196 ジスニア

「そうですね、そうしましょうか! ほら、後ろを向いてアイシヤ!」

cha0157 アイシヤ

「やあん、また私……動物みたいに交尾しちゃうのねえ……ん……っ、ん、んううんああああああっ……!」

cha0158 アイシヤ

「あぁっ……ああぁ……すごぉい……ん……ひと突きされただけで、あ、ああ……少し  
イっちゃったわぁ……ああ……」

cha0197 ジスニア

「んふうっ！ アイシヤ、イキ癖がついちやいましたね！ そんなエッチなあなたのご  
と、ご主人様がなんて言ってるか知ってますか？」

cha0198 ジスニア

「淫乱デカ乳女……ですって！」

cha0159 アイシヤ

「ああ……んんっ、そんなぁっ……そんなこと言わないでっ、ひいっ……あ、ああぁ……  
だめえ……ううっ……感じちゃううっ……」

cha0160 アイシヤ

「ひぁあんっ……や、やぁっ……おっぱい、後ろからそんなにぎゅうっしてしないでえっ  
……あふううっ……ん、んぁぁっ、ひっ、ひううっ」

cha0161 アイシヤ

「ぁぁあんっ、あん、っぁぁぁっ、ズンズンすごいっ、ぁぁっ、ぁっ、ぁぁぁっ、  
私いいまたすぐイっちゃうかもぉおぉっ……！ あぁっ、ぁっ、ぁぁぁっ」

cha0162 アイシヤ

「んんぁっ、ぁっぁ、ぁぁっ、ぁぁぁっイクっイクウウウウウウっ……  
……！……！」

cha0163 アイシヤ

「ぁひいっ……ひい……んんん……はぁ……はぁぁぁぁ……きもち、いいいい  
……！」

cha0164 アイシヤ

「はぁ……ぁぁ……はっ、はぁ……。ええ……？ まだ、するの……？ はぁ、はぁぁ  
……ほんとだわ……まだソレ、おっきいままね……わかったわぁ」

cha0165 アイシヤ

「んっ……次は、どんな格好ですの……？ はあ、ああ……自分で、動けって……どうすればいいのお……？」

cha0169 ジスニア

「ご主人様の上に跨がって、アイシヤが腰を振ってみましょうか。自分でおちんぼを入れるんですよ」

cha0166 アイシヤ

「あはあ……ん……こう、かしら？ ん、ん、んんっ……ああ……太いのが入ってくるわあ……ああ……あああっ……」

cha0200 ジスニア

「ふふ……それから、前後や上下、好きに腰を動かして下さい。自分の気持ちいいところを探してくださいっ」

cha0167 アイシヤ

「んっ……んっ……ああっ……あ、あっ……あああっ……ああっゴリゴリ擦れるうっ……あ、ああ、さっきとはまた全然ちがうううっ……ああんっ」

cha0168 アイシヤ

「ふああ、ああっ……あ、あああっ……腰が、止まらないい……んんん、き、きもちいいいい……あああ、あああああっ」

cha0169 アイシヤ

「んんあああっー？ あああっ、うふふっ、おっぱい、ぎゅっとしないでえ……あああっ、でもそれ、いいっ、もっとおお、強くっうう……」

cha0201 ジスニア

「いいですねっ。すくいやらしい腰つきです……！ そんなアイシヤにはご褒美をあげますっ。そのままお尻を突き出してっ！」

cha0170 アイシヤ

「ああん……はう……んん……こう、ね——あぐうううっ！？ お尻に、何か入ってくうるうっ！？ ジスニア、何をしてるのっ……！？ あぐうう、ふううん……」

cha0202 ジスニア

「うふふ……ペニスバンドって知ってますか？ 男性器の形をしている物を腰に装着して、アイシャのおしりの穴に入れてあげてるんですう！」

cha0171 アイシヤ

「ひ、ひぁ……そんなぁ……ああ……お尻があ……広がっていくぅう……！」

cha0203 ジスニア

「うふふ、さぁ、おまんこは下から突いてもらって、お尻は後ろからズコズコしてあげますからねえ！ んっふううつ、はぁっ、はぁっ、はぁっ！」

【収録メモ】ここからはあまりの衝撃と快感に、息しか出ない芝居でお願いします。

cha0172 アイシヤ

「ひいっ………？ つつつぁっ………！……ッ……ふっ……ぁっぁっ……っッ………！」

cha0173 アイシヤ

「っ………っんっ………！ ……つつつつっ！？ ひいっ………ッッッッッッッ………！」

cha0204 ジスニア

「アイシヤっ。はぁ、はぁ……んんっ………痙攣しちゃってますね、イっちゃってるんですねえ……！」

cha0174 アイシヤ

「ひううつ………ん………ああぁ………つつ、ひ………は………つつ、ッッッううつ………んっ………ッッッッッッ………！」

cha0205 ジスニア

「ういふふふふー！ 声も出せないほど気持ちいいんですねえっ………！？ あぁっはっはぁぁっ、あんっ、私も、興奮しちゃいますうつ、はぁっ、ああぁっ」

cha0206 ジスニア

「ああぁっんっ、これっ、内側にも棒がついてっ………私の中でも動いてて気持ちいいんっずううつ………！ ひ、ああっ、ぐひいひんっ………」



cha0211 ジスニア

「はあ……んはあ……はあ、はあ……んん……ふう……はあ……気持ちよかったですか……？」 もっと、おねだりして下さい……！」

cha0180 アイシヤ

「……っ……っ……ん……ああ……はあ……ああ……も、もっ……とお……もっと、イカせてええ……はあ……はふあ……」

cha0212 ジスニア

「ふふ……ふふふふ……主人様もイってないですし、まだまだ責めてあげますっ………！」

cha0181 アイシヤ

「あああああっ！ んああっ、あっ、んあああい！ あっ！ ああああっ！ あふああっ！ んうっあうあううっ……！」

cha0182 アイシヤ

「ああああっ、あっ、ああああっ、ち、ちめっ、あぐうっ、ひいひいあっ、あっあ、あっあ、ああああっ、お尻、どうしてえええっっ、慣れてきちゃったあああああ……！」

cha0183 アイシヤ

「やあああああっ、ぎもち、いいいいっ、あああっ、あああっ、頭、まっしろに、なっちやうううあうううっ、あああああっ……！」

cha0184 アイシヤ

「あんっ、あんっ、あ、ああっ、ああっ、ふあああっ、もっと、もっとおっ、両方の穴あっ、かき回してええっ、くああ、ああんっ、もっと、ほしひいひいっ」

cha0213 ジスニア

「はああ、はっ、んっ……んふふっ、アイシヤ、やみつきになっちゃって、お望み通りに、してあげますねっ、ん、んあ、あっ、あ、ふっ」

cha0185 アイシヤ

「あつひああああああつ、ああつああああつ、うああつ、ああああつ、あつ、あんつ、んふうあつ、ああああ、ひぐうううう、あうううあつ」

cha0186 アイシヤ

「ふああああ、あつ、あああつ、イクツ！ イクウイクイクウウウウウウウウウウウウウウウウウ……」

cha0187 アイシヤ

「あひ……い……くあ……つ……あ……い……つ……あ……あ……」

cha0214 ジスニア

「ふう……ふう……アイシヤ？ アイシヤ？」

cha0188 アイシヤ

「ひ……うう……ん……」

cha0215 ジスニア

「あら……、失神しちゃって……くすくす、かわいい。ご主人様、まだ物足りないですよ……？ 私も、あなたの感じている顔をもっと見たいです……」

cha0216 ジスニア

「そうだ、セラを呼んで来ますね。セラ、セラ！ ……セラ？ ああ……おまたからそんなにお汁をだらだら垂らしちゃって……」

cha0190 セラ

「はあ……はあ……ジスニアあ……私い……はあ」

cha0217 ジスニア

「セラ、一人でしていたんですね……？」

cha0191 セラ

「ん……んんう……だって、あんなの見たら……はあ、はあ……ガマンできなくなっちゃったんだもの……」

cha0218 ジスニア

「素直なセラ、好きですよ。じゃあ今より気持ちよくしてあげましょうか」

cha0192 セラ

「うん……おねがい……このままじゃ私……気が狂っちゃうから……」

cha0219 ジスニア

「あああつ……セラ……こっち来てえ」

cha0193 セラ

「ああつ……ん……ジスニアあ……あ、あ、あ、指いい……あつ、あああつ……もつと、してえ……ああ……ん……」

cha0194 セラ

「はあ……あああ……んんっ……ふああ……あ、あつ……あつ。それ、いい……んっ、んふうあ……あああ……あん、あんっ……」

cha0195 セラ

「あ……あ、あ、ふああ……あ、あんっ……い、イキそお……イクううう……ふああ、んあ、ふああああああああああああああ……!」

cha0196 セラ

「はあつ……ん……んはあ……ああ……はあつ、はあ……イっちやつ……たああ……ああ……」

cha0220 ジスニア

「セラがこんな蕩けた顔するなんて……! 中もトロトロに濡れています……さあ、ではご主人様に入れてもらいましょうか……」

cha0197 セラ

「ふ、あ、ああ……? 入れるって、何を……? ……ふえ……まさか……!?!」

cha0221 ジスニア

「そうです、ご主人様のをセラの中に挿入するんです」

cha0198 セラ

「あ、あ、あああ……ほ、ほんとに、するのっ……!?!」

cha0222 ジスニア 「約束、ですよね……？」

cha0199 セラ 「……ん、くうっ……！ わかった、わよお……！ でも……絶対に、感じないから……！」

cha0223 ジスニア 「くすくす、そうですかあ……。では、ご主人様、お願いします」

cha0200 セラ 「……っ！ ひっ、こんなのが、私の中に入るの……！？ ううっ、何よ……！ 怖くなんか、ないわよ！」

cha0201 セラ 「そうやって、女を食い物にすればいいのよ……あんたなんて、地獄に堕ちるんだから……ケダモノ……！」

(セラが挿入され始める)

cha0202 セラ 「はあうう、いたっ——あ、れ……？ い、いたく、ない……？ え、え……な、なんで？」

cha0224 ジスニア 「……恋人同士のように、じっくり丁寧に愛してもらえるから、そうなります……ご主人様は、女の悦ぶセックスをご存じですから」

cha0203 セラ 「そ、そんな……や、やめてよ……！ 屈辱だわっ……！ ああっ……ん、んくうう……もっと乱暴に、しなさいよおっ……あ、あふっ、んっ……」

cha0204 セラ 「あ……あふ、んっ……ああん……ううっ、んん……はあ……ああん……あっ、ああ……ああ……いやああ、こんな奴ので、感じたくないっ……」

cha0205 セリ 「や、やあ……あ、あ、あんっ、あふうっ……。ああっ、あう、ふ……んんっ……ああっ、ああうっ」

cha0225 ジスニア 「ん、ふふふ……私も、初めては優しく奪われました……ふふ……気持ちが良いでしょう、セラ？」

cha0206 セリ 「ううっ、ああっ……いやっ、そんな……こんなの嘘よお……ああっ、あっ、あああっ……やああああ……あ、あ、ああああ……」

cha0207 セリ 「ひううっ、あんっ……あ、ああっ、ああっ……い、いや、やだ、あ……い、イキそうっ……やめて、ああ……そんなに優しく動かないで、ああっ、……あああっ！」

cha0208 セリ 「あっ……ん、んっ、んんっ……ふあっ！ あ、あん、あんっ……やつ、やあっ、中で大きくっ……あんっ、何っ、何？ まさか、あんたもイクのっ……！？」

cha0209 セリ 「んうっ？！ 中は、だめっ！ やだっ、やめてえっ……！ お願い、ああっ、ん、んああっ……！」

cha0210 セリ 「あんっ、あんっ……ふううああっ……抜け、たあっ！ あああっ……でも、イクううッ！ ひやあああああああっ……！」

（外出し）

cha0211 ヤリ 「ん、んっ、ふうっ……ああっ、あっ、ひあああっ……ー、ぶぶぶっ、くっ……熱いのがかかってるう……ううっ……」

cha0212 セラ

「ああ……はあ、はあ……ん、ふう………ん、あ……うう……はああ……、身体が、白いのでドロドロに……ああ……いやあ……」

cha0226 ジスニア

「はあ、はあ……セラ、外出しでしたが、初めてにセックスはどうでしたか？」

cha0213 セラ

「んん……ふう、はあ、はあ……はあ……ん……んう……そ、そんなの……ああ……しないわよ……はあ……」

cha0214 セラ

「ああ……あ……こんなのお、ちがう、うう、……んん……この感覚、は……身体だけ……心じゃない……ああ……」

cha0227 ジスニア

「セラったら、さっきは素直になっていたのに……ふふ、でもきくとすぐにご主人様を求めるようになりますよ……」

cha0215 セラ

「はあ……うう……私、は……屈しない……!」

cha0228 ジスニア

「ご主人様、今お掃除してさしあげますから。んちゅっ、れるっ、ちゅぽ、じゅるるるっ、ん、ちゅぽっ、ふうっ、ちゅっ、れるっ、じゅぽぽっ」

cha0229 ジスニア

「はう、むっ……じゅぽ、れるっ、ちゅぽ、ちゅぽああっ……ああ……ご主人様……おいしいですう……れるっ、んんっ、れるれるっ、ちゅう、ちゅぽおっ……」

cha0216 セラ

「はあっ……やめてえ……そんな音、聞かせないで……」

cha0230 ジスニア

「んあ……私の口の中で、どんどん硬く、大きくう……ふあむっ、じゅうう……じゅぽっ、ちゅっ、れるっ……えるっ……ちゅうっ……」

cha0217 セラ 「はあ……んん……はあ、はあ……んっ……くう……はあ……」

cha0231 ジスニア 「ぢゅぱっ……んふふう……セラ、お掃除フェラを見せてつけられて、また興奮してきましたか……」

cha0218 セラ 「ち、ちがつ、う……！ ふ……うんっ……」

cha0232 ジスニア 「ほら見て下さい。ご主人様の、大きく反り返ってます……またあなたの中に入りたいみたいです」

cha0219 セラ 「そ、んな……や、やめて……。もういらないっ……！ んっ！ んうううあああああ  
っ……ー。」

cha0220 セラ 「ああっ……んっ、あああっ、あんっ……ふあああっ……んんっ……くうっ、  
ふううっ、ん、んっ、んんんっ……はあっ」

cha0221 セラ 「はああっ……おっきい……んっ、んっ、ああっ、いやああっ……ああっ、ふ、うう  
っ、あんっ、やああっ……」

cha0233 ジスニア 「セラ、さっきより声が甘くいやらしくなってますよ。感じているんですね」

cha0222 セラ 「あんっ、ん、ん、つくう、……ふああっ、やだっ……んん、うう……感じて、なんて  
っ……あんっ、んんうう……」

cha0223 セラ 「はあっ……はああ……ん……うううっ、んっ、はあ、はあ……はううつんあっ……あ  
っあっ、ああああっ……はふうっ、くう……」

cha0224 セリ

「ひうつ！ あつ、あつ、あんつ、あああつ、やんつ、そんな、抜き差ししないでえつ、うう、あはあつ、はあああつ」

cha0225 セリ

「あんつ、んんつ、ううつ、ふ……あ、ああんつ、ううつ、やだ、やだあ……きもち、よくなつちやううつ……ああんつ……、あつ、あああつ」

cha0234 ジスニア

「ん……セラ？ なんて？ もっと大きな声で言ってみてください」

cha0226 セリ

「ひうつん、はつ、はあつん、んん、やあつ、んんつ、ごめんなさいいい、私、あんつ、あんつ、きもちいいのおおつ……！」

cha0235 ジスニア

「ういふふふ、そう、それでいいですよセラつ、もっともって感じていいんですからねー」

cha0227 セリ

「はああううつ、あんつ、あんつ、あんつ、あんつ、あんつ、あんんつ！ ふううあああつー」

cha0228 セリ

「あつ、あつ、あん、んんうう、ふ、ふうつ、太くて長いのつ、あんつ、あああつ、すいいづつ、はううつ、んんつ」

cha0229 セリ

「あつ、あつ、あつ、あつ、あああつ、やだやだやだ！ はあああつ、いつちやううつうつ、ああつ、はううう、んんつ、んんつ、んつ！……！」

cha0230 セリ

「んあつ、あああああああああああつ…………！」

cha0231 セラ

「あふうう……あつ、ああつ……、ふええあつ、あああ……ああつ、中にい……何い……熱いの、入ってきてるううう……っ」

cha0232 セラ

「私、中出しされてるのお……っ、んっ、んううう……はああ……どくんどくんとしてるうう……」

cha0236 ジスニア

「中出し、いいものでしょっ？」

cha0233 セラ

「っふあああ……うん……私のお腹の中、あったかくなつてえええ……ポカポカするの  
おお……」

cha0237 ジスニア

「これからも、ご主人様にたくさん中出ししましょうね、セラ」

cha0234 セラ

「んふうう………はひい……」

【収録メモ】以下、モノログでお願いします。

cha0235 セラ (M) 「戦士団の執務室で事務仕事に励む。仕事に集中しなければいけない。書類に目を通し

てサインをしなくてはいけないのだけど、文章がまったく頭に入っていない」

cha0236 セラ (M) 「あいつにいつ呼び出しをされるのかと考えていると、身体が火照ってしまふ。頭の中

で、いやらしい妄想が止まらない」

cha0237 セラ (M) 「こんなのは薬の副作用。そう思えばおもうほど、息は乱れ……脳内で私は、犯されま

くっている——」

【収録メモ】以上、モノログ終了。

cha0238 セラ 「は……んっ……や、だ、私……職務中なのに、こんなところ触っちゃ、だめよ……！

ああ……濡れてる……くう、うううう……」

cha0239 セラ 「う、う……んん……はあ、はあ……ああ……どうしよう……一人でこんなことするの

が、増えてきてるう……んん、あはあ……」

≡ 扉を明ける SE

cha0240 セラ 「ひあっ！？ だ、だれっ、クローズっ……！？ ……な、なんで……なんで、あんた

がこんなところに来るの！？ ああ……これは、ち、ちがうわよっ……！」

cha0241 セラ 「なに、よ……窓際に立って……。こっちに来い？ 何するつもりなの……っ？ ぐく

っ……わ、わかったわよ……！」

cha0242 ヤリ 「ああっ……やだっ、いきなり脱がさないでよおっ！ こっ、は……ああっ……外から見えちゃう……戦士団のみんなが……あっ……」

cha0243 ヤリ 「んんううっ……！ 窓に押しつけないでっ……おっぱい乱暴にしないでええっ……  
あ、あっ……！ あっ、あ、いやああ……！」

cha0244 ヤリ 「あ、あんっ……！ ああっ……違う、濡れてるのは……ちがうのお……！ ああっ……  
……ああ……あっ……はあっ、はあ、ん……」

cha0245 ヤリ 「んんううっ……はっ、ああんっ……んんうっ、ああっ、あふうっ……ひ、ひああっ……  
…」

cha0246 ヤリ 「ああっ……あ、あ、あっ、あんっ、！ ああああああああ……！  
はあ、はあ……こんな……みんなが働いてる中で、私は……こんな男に……！」

cha0247 ヤリ 「んん……ああ……はあ、はあ……はあ……ううう……。わかってる、わよ、まだ終わらないんでしょう……はあ……はあ……」

cha0248 ヤリ 「でもお願い、このまま密蔵で入れるのはやめて……！ ほんとに、見られたら——あ  
っああああんっ！」

cha0249 ヤリ 「ひあ……や、やめてって言ったのに……あっ、あっ、あんっ、あああっ、太い……  
……！ ん、んんううう……ふ、ふううっ……ううあっ、ああっ……」

cha0250 ヤリ 「んんううっ……ああっ、ふああっ……あんっ、ああっ、ひあっ……ん、はあっ……やあ  
っ、あんっ、んんううっ……」

cha0251 セリ

「あふう、んっ……やああっ……やだっ、いつもより、感じちゃうっ、はああっ、んんっ、奥まで、来るうううっ……」

cha0252 セリ

「んんっ、ふ、ああっ……ああっ……ああっ……どうしよう、私っ……ああっ……見られてるかと思うとっ……ああっ……んんっ、興奮しちゃってっ……ああっ」

cha0253 セリ

「あああっ、あんっ、あんっ、あんっ、ああっ……激しいっ、んんうっ、ふ、あああっ、ひ、ううううっ……あ、ああっ……アンタもいきそうなのね!」

cha0254 セリ

「んっ、あっ、あっ、あっ、あっ、いいわよ、イキなさい、よっ……! あんたも興奮してるんでしょっ……ああああっ、あっ、あ、あ、あ、あっあああっ!」

(射精)

cha0255 セリ

「んんうっ! んっううううああああああああああっ……!」

cha0256 セリ

「んああっ……はあ……はあ……ああ……流れ込んでくるっ……ううっ……あふ、んっ、んん……んあ……」

cha0257 セリ

「ん……はあ、はあ……さ、さあ、これで、満足でしょ……? 早く、出て行ってよお……!」

cha0258 セリ

「んっ!?! ひいつ、あっ、あっ、やだっ、まだするのお!?! ああっ、あ、ああっ、あんっ、あああっ、はあっ、ひんっ」

cha0259 セリ

「はうっ、んっ、んっ……んんうう……お願い、みんなあ……こっち、気づかないで……見ないで……っ! ふうっ……くっ、ん、ん、んううっ」

cha0260 ヤリ

「ひっ……！？ え、あつ、あぁっ……ウイ、ウイルっ！？ 外にウイルがいるっ……！？ うそっ……あぁっあつ」

cha0261 ヤリ

「やだぁっ、だめっ、止めてっ、んん、んぁんっ……ウイルが、こっち、見ちゃうっ……からぁっ！ あんっ、あんっ、ぁんんっ、んぁぁぁぁぁっ……！」

cha0262 ヤリ

「ひっ、いつ、いつ……んんぁっ！ あんっ、だめっ、あぁっ、うそぉおっ……私、くううっ、あぁっ、んんぁぁっ、あぁっ……！」

cha0263 ヤリ

「あぁぁっ、こんなやつとおおっ、一緒に、ぁんんっ、伊っちゃうよぉおぁおっ……！」

(射精)

cha0264 ヤリ

「っ、んぁぁぁっっっ、ううううううっううううううううううう……！」

cha0265 ヤリ

「あぁっ……ぁ、ぁ、はぁぁぁっ……ぁぁぁ……ウイルうう……ぁ……ごめん、なさいい……ぁぁぁ……私い、あっ……ぁぁ……」

cha0266 ヤリ

「はぁ、ぁぁ……私いい……中出しされまぐっ……イキまぐってるのぉお……ぁ、ぁ。はぁぁぁぁぁ……ぁ……」

cha0267 ヤリ

「ふぁっ……ぁっ！ あぁぁっ、またっ……！ ぁ、ぁ、ぁ、もう、無理っ……やぁぁぁ……やめてっ、ふぁぁっ……ぁ、ぁ……お願いいい……」

cha0268 ヤリ

「ひっ、うっ、ううううっ……もう、あぁっ……腰も、あぁっ……脚も、がくがくするうううう……ふぁぁっ……はぁ、んっ、んんんっ、あっ……」



【収録メモ】以下、モノログでお願いします。

cha0189 アイシヤ (MF)

「セラを抱いてきたというクローズがうちにやってきた。ひどいことはしていないのかと聞くと、彼は静かに笑みをこぼすだけだった」

cha0190 アイシヤ (MF)

「ここにきたということは、おそらく私も求められてしまうのだろう。私が素直にしていば、セラにもジスニアにもひどいことはされない」

cha0191 アイシヤ (MF)

「実際に彼女たちは抱かれたとしても優しくされていて、ひどいことはされていない」

【収録メモ】以上、モノログ終了。

cha0192 アイシヤ

「今日はここをするの？ 私とウィルの思い出の家なのに……。え、ご飯を……作れ、ですって？」

cha0193 アイシヤ

「いいけど……何が食べたいの？ 何でもいいって……それが一番困るのよねえ。うーん、ちょっと待ってて」

【収録メモ】次の文章のみモノログでお願いします。

cha0194 アイシヤ (MF)

「あるだけの食材で、手早く料理を作る。ああ、こういうことウィルにしてあげてたっけなあ……弟との思い出を懐かしみながら、フライパンをふるった——」

cha0195 アイシヤ

「……はい、どうぞ。召し上がれ。……どう？ まあまあって……作りがいがいいわねく……。ウィルは何でもおいしいおいしいって言ってくれたのに」

cha0196 アイシヤ

「あら、でもペロリと完食してくれたじゃない。え？ おかわりはないのよ……、これだけ。前もって言うてくれたら今度から用意するから、それでいい？」

cha0197 アイシヤ

「……んん、何？ あむっ……ちゅっ、んんっ、ちゅっ……んあっ……ちゅぱっ……。んん、ああこれ、初めてのキスだわ……はふ、はふう……」

cha0198 アイシヤ

「いきなり、何よ……もう……。え？ もう一回するの？ わかったわ……んっ、ちゅう……ちゅっ、ちゅうう……ちゅうっ、ちゅ、ちゅっ……」

cha0199 アイシヤ

「んあ……キスって、きもちいいのね……ん、ちゅ……ちゅむっ……ちゅっ……れるっ、んちゅうう、えるうっ……ああ……舌を絡ませるのって、いやらしいわ……」

cha0200 アイシヤ

「ぢゅっ……ちゅばあっ、はふう、ん……ふう、ふう……それで……これから、どうするの？ んちゅうっ……んっ、ちゅぱっ……ああ」

cha0201 アイシヤ

「ええ？ お風呂？ お風呂に一緒に入るの？ いいけど……お風呂場はこっち。ほら、服脱いだらここに入れて……」

cha0202 アイシヤ

「え？ 身体洗って欲しい？ 今日のあなた、甘えん坊ね。じゃあ、身体洗うわね……。んう……。鍛えてるのね、たくましいわ……。改めて見てみたら、うん……」

cha0203 アイシヤ

「ああ……」 ちよっとおつきくなっちゃってる……。こども、洗うのよね……。ううっ……おちん、ちん……」

cha0204 アイシヤ

「しっかり洗ってあげなくちゃ……んっ……んっ……ん、んっ……ふっ……」

cha0205 アイシヤ

「どんどん、固くなってきたわよね……気持ちいいの……？ はあっ……んっ、ん、はあ……もっど、ユシユシしてあげる……んっ……」

cha0206 アイシヤ

「はあっ……はあ……んっ……はあ、はあ……、手ですると、こんな風になるのね……ふう、ふうっ……んっ……んっ……んんっ……」

cha0207 アイシヤ

「んんっ……は、あっああっ……ああっ……ぐんぐん、してるう……ああっ、あっ、んふうっ……いいわ、出してっ……！ はあ、はあ、はっ、んんっ、んんっ……」

cha0208 アイシヤ

「ああっ……ああっ、ああっ……！ 白い、シャワー……浴びちゃってる……んっ、んっ……はあっ……はっ……あっ……」

cha0209 アイシヤ

「はあ、はふう……ふう……ああ……はあ……これえ……まだビクンビクンして、ぴゅうぴゅうしてるわあ……ああ……すごい。はあはあ……」

cha0210 アイシヤ

「舐めてキレイにすればいいの……？ わかったあ……はむっ……ちゅっ……んっ、ちゅぱっ……はあ……ドロドロが、口の中に……ちゅるっ」

cha0211 アイシヤ

「えっと……ん、この後はどうするの……？ ……はあ……はあ……んう……。え？ 帰る……？ うそ、でしょ……？ ああっ……待って！」

cha0212 アイシヤ

「……ほんとに、行っちゃった……そ、そんなあ……。私、この後どうすればいいの……ああ……」

cha0213 アイシヤ

「このままだなんて……あ……はあ……私、無理……でも、誰もいないし……。誰も、いない……？ っ、そうだわ……」

cha0214 アイシヤ

「んっ……あの人は、たしか、こうやって……おっぱいを揉んでくれたわよね……あんっ……はう……乳首も、ああ……くうんっ……」

cha0215 アイシヤ

「おまただっ、はぁ……中に指、いれちゃお……ああっ……あっ、あっ……ああっ……ああっ……ぶちゅぶちゅ、してるうっ……はぁ、はぁあん……」

cha0216 アイシヤ

「ああっ、はううっ……んっ、んっ……んんううっ………んあっ、あふあっ……ああ……ああ……はぁ、はあっ……」

cha0217 アイシヤ

「あ、あっ、あっ、くるうっ……ああっ……あっあ、あっあああっ、ひやあああああ  
ああああああああんっ……!」

cha0218 アイシヤ

「ああっ、ああっ……はっ、はあああ……私いい……あの人みたいに、びゅーびゅー  
エッチな汁っ……ああっ……出しちゃったあああ……なに、これ……はぁ、はぁ……  
…」

78

cha0219 アイシヤ

「はぁ……はふう……はぁ、気持ち、よかったあ………んんうっ……ふう……ふう……  
…」

cha0220 アイシヤ

「あ……れえ……? 私ったら、何して……? ああああ………私、おかしくなっ  
てきてるの……っ。」

【収録メモ】声を潜めて下さい。

cha0275 セラ 「んっ……ふっあ……ああ……んっ……んんあっ……あふっ……くうっ……」

cha0276 セラ 「あ、んっ、やだっ……そんなところ、触らないで、あっ……！ これ以上は、ほんとに、だめっ……！」

cha0288 ジスニア 「深夜に、ウィルとセラの寝室で、ご主人様にエッチなことされるのって、どうですか……？」

cha0289 ジスニア 「ウィルの隣で、そんないやらしい声あげて……セラも随分と変態になりましたね」

cha0277 セラ 「あああっ……そんなあ……っ。だ、め……ウィルが起きちゃう……っバレちゃううう……！ ああっ！ いきなり舐めちゃっ……あああっ……」

cha0240 ジスニア 「大丈夫、ウィルは夕食に混ぜた睡眠薬でぐっすりですよ。セラがどんなに喘いでも起きません」

cha0278 セラ 「あっっ……あふう……ん、んんっ……ほんと、に……？ ああっ！ あんっ、あ、そこ……おお……ああっ……あっあああ……」

cha0241 ジスニア 「そうだ、いいことを思いつきましたあ……。んっ……」

cha0279 セラ 「あっ、ジスニアあっ……！？ なんで、ウィルのズボンを脱がしてるの……っ！？ ああ、んんっ……あっ、ひいっん……」

cha0242 ジスニア

「セラがご主人様をイカせるか、私がウィルをイカせるか……どちらが先か勝負しましょう。……れりゅっ……ちゅぽっ……」

cha0280 セラ

「つつ……！？ やめてえっ……私も、まだ……ウィルの舐めたことないのいい……！」

cha0243 ジスニア

「かわいらしくて立派なおちんぼ……でも、ご主人様の方が、もっと……んあつむ……ちゅぷっ、ちゅぷぷっ、れるっい、れるう……」

cha0244 ジスニア

「私が勝ったら、ウィルの子種を初めて味わうのは……あなたではありませんよ……ちゅつれるっ、んっ、んっ……ちゅるるっ」

cha0281 セラ

「そんなの、だめっ……！ くっ……ねえ、お願い……私の中に入れて……！ そしたら早くイけるでしょっ！ お願いだからあ……！」

cha0282 セラ

「何を、どこに……そんなこと、わかってるでしょ？ いつもしてることじゃないの……。……う、ううう……！」

cha0245 ジスニア

「ちろ……れる……える……ほら、はやくしないと、ウィルがイっちゃいますよお……？ えろっ……れろお……」

cha0283 セラ

「つつ……！ お……おちん、ぼ……を、おまんこに……いれ、てえ……！ つ……自分で入れろ、なんて……うううっ……！ やればいいんでしょっ……！」

cha0284 セラ

「う、うう、んん……あっ、ああっ……私、自分で……はあうっ……入れちゃったああ……あああ……」

cha0285 セリ  
「うう……はあ、ん……早く……下から突き上げてっ……！ はやくうううっ！ あ  
っ、あっ、あっ、あっ、あっ、あっ……！」

cha0286 セリ  
「あんっ、うううっ、ああっ、ふあっあ、ああっ……！ あっ、ああっ、あん、んん  
うううっ、ひううっ……」

cha0287 セリ  
「ああっ、あっ、あっああっ、激しいいいっ！ そうよその調子で、はやくーっっ  
え！ ああっ、ああああっー！」

cha0246 ジスニア  
「ちゅっ……ちゅうっばあ……へろおっ……ふふふふふ……んうっ……れろろっ……  
れろれろ……」

cha0288 セリ  
「ああっ、あああっ……ウイルううっ、なんで、ジスニアに舐められてっ……そんな  
に気持ちよさそうな顔してるのっ……！ あああっ、あんっ……」

81

cha0289 セリ  
「んんっ、ん、んっ、うううっ……うううっ、あああっ、あんっ、あああっ、  
あああっ……ー！」

cha0290 セリ  
「ひうっ、ん、ん、んあっ、あっ……きちやうっ、あううづっ、ああああああああ  
あああああああっ……ー！」

cha0291 セリ  
「はあああっ……ああっ……ああっ、私が……先にイっちゃった……ああ……あああ……  
……はあ……」

cha0247 ジスニア  
「れろっ……んふう……自分で動いて、ご主人様をイカせた方がいいんじゃないでしょ  
うか？ ほら、はやくしないと、ウイルが……ちろっ、れろおっ」

cha0292 セリ  
「つつだめっ！ ふっ、んっ、んっ……」うっ……！？ ねえ、こうすれば気持ちいいの？ あっ……ああっ、んっ、どうなのよおっ！」

cha0293 セリ  
「んっ、ん、ああっ……あ、今、気持ちよさそうな顔したあっ……、こうね？ あっ、あああっ……！ 早く、出さないよおっ！ うっっ、くっっ……」

cha0294 セリ  
「ふっ……あっ！ うっうっ、あっ、ん、ん、んっ、あああっ……私、自分で、うっ、あんっ、こんなに腰を、エッチに動かしちゃってる……っ」

cha0295 セリ  
「あああっ、出してっ、ねえっ……はやくっ、ああ、ああああっ、あんあん、うっう、んんっ、ん、ん、やあああっ、また私っ……ひ、ひいいっ……あ、あああっ」

cha0296 セリ  
「どうして私っ、こんなに感じる身体に、なっちゃったのおおっ……あっ、あっ……ウイルのじゃないのにいいっ……あっ、あっ、あああっ！」

cha0297 セリ  
「んんうっうっあああああああああっ……！」

cha0298 セリ  
「ひうっ……はあ、は、はあっ……あ、あっ、あああっ……あん、あんっ、はあ……はあ……あああああっ……あ、あ、あああっ……」

cha0298 ジスニア  
「ちろろっ……セラ、休んでいる暇あるんですか？ ご主人様はまだイってませんよ？ れるっ……」

cha0299 セリ  
「へっ……うっっ、あああっ、んっ、んっ、いいかげん、私の、中につ……ああっ、あああまけてよおおっ……！ はあっ、はひっ、んっ……んんうっ、あああっ！」

cha0300 セラ 「あ、あ、あ、あつ、あつ、震えてきたあつ……。あああつ、ちようだい、ちようだ  
いいいいつ……。ひ、い、あああ、んうう、ううううう」

cha0301 セラ 「ひああああああああああああつ……。―」

cha0302 セラ 「はあつ……。ん……。はあ……。あ、ああ……。はああ……。私いい……。注がれてるう  
う……。ああ……。はあ……。あああ……」

cha0303 セラ 「ふふ……。うふふふ……。ジスニアア……。私、勝ったわよお……。―」

cha0249 ジスニア 「ちゅふつ……。ん、ふふ……。負けちゃいましたあ……。残念です……。これでウィルの初  
めの精液は、あなたのものです」

cha0304 セラ 「ああつ……。はあ、はあ……。ああ……。うれしい……。よかったあ……。ふう、ふう……  
…。ウィルの初めては……。私が、もううんだから……」

cha0250 ジスニア 「さあ、この部屋でするのはおしまいです。あとはリビングで、ウィルのことなんて気  
にせずにイキまくりましょう」

cha0305 セラ 「あ……。ああ……。やっぱり、これじゃ終わらないのね……。はあ、ああ……」

cha0251 ジスニア 「さあ、いきましよう……。だって、セラもまだ満足できていないですよ？ 気を失  
うまでセックスしてもらわないと」

cha0306 セラ 「あ、ああ……。そんなこと……。ずむ……。いへっ」

cha0307 セリ

「ううう……ウイル……。ごめん、ね……行ってくるね……だって、私、このままじゃ……おかしくなっちゃう……あなたの前ではかっこいいセラでいたいから……」

【収録メモ】次の文章のみ、モノログでお願いします。

cha0308 セリ (M)

「その後も私は、何度も何度も。中に出されてしまった……。激しすぎてよく覚えていないけど……」

cha0309 セリ

「おっ、おっ、おっ、ああおっ……！……！ きもち、いいいいいいっ！……！ これ、いいのおっ、ああああっ、いっぱい突いてええっ！」

cha0310 セリ

「んくうううっ、もっとお、もっど……！ ジスニアあ、私のクリトリス、いじつてええー」

cha0311 セリ

「ああああっ、おちんぼー！ おちんぼおおおー！ おちんぼズコズコ気持ちいいのおおおおおおおおっー！」

cha0312 セリ

「おちんぼでおまんこ溶けちゃううううっ……ああああっ……イクううううううううううううううっ！……！」

cha0313 セリ

「っ……ああっっ……あひいいああ……私い……もう、死んじやうううう………ひ……ああ……う………」

【収録メモ】次の文章のみ、モノログでお願いします。

cha0314 セリ (M)

「何か……とんでもなく恥ずかしいことを叫んでいた気がする……。それは夢であって欲しいと願うばかりだった……」

cha0252 ジスニア 「セラ？ 気を失って……ああ、幸せそうな顔……」

cha0253 ジスニア 「じゃあ、ご主人様、私がお掃除してあげますね。ちゅっ……れるうう……じゅっ、じゅば……んっ……ちゅばっ」

cha0254 ジスニア 「はあ……私があなたに墮とされていった日々が懐かしいです。私もセラのように最初は嫌がって……ちゅっ……れるうっ」

cha0255 ジスニア 「んう……でも、あなたに愛されて肉の悦びを覚えていき、今ではあなたなしでは生きられない身体になってしまった……。知っていますか？ 私はあなたを愛しています」

cha0256 ジスニア 「これが偽りの愛情だったとしても私は……んちゅっ、いいえ、こんな話どうでもいいですよ。もっと気持ちよくなりましょう」

cha0257 ジスニア 「ね、アイシャ？ 私の言ったとおり、良いものが見れたでしょう？」

cha0221 アイシャ 「……ああ……はあ、はあ……ああ………」

cha0258 ジスニア 「証拠として見せましたよ。セラ、ひどいことはされてなかったですよね？」

cha0222 アイシャ 「されて、ない……すごく、気持ちよさそうだった……」

cha0259 ジスニア 「ありがとうございますアイシャ。あなたのおかげでセラも私も、優しく愛されているんです。感謝しかありません」

cha0260 ジスニア  
「そんなアイシヤにお返し……プレゼントです。ご主人様に種付けプレスしてもらいま  
しょう」

cha0223 アイシヤ  
「ん……う……種付け……プレス……？」

cha0261 ジスニア  
「すごく気持ちのいいセックスです。仰向けになって、足を思いっきり開いてくださ  
い」

cha0224 アイシヤ  
「うう？ ううでいいの？ はあ……はあ」

cha0262 ジスニア  
「アイシヤったら、上からも下からもヨダレ垂らして……いけない人ですね」

cha0225 アイシヤ  
「だってえ、きもちいいの、欲しいのおお……！ もおお、はやくちようだいっ……  
……！ ああっ、あっ、ここに入れてええええ」

cha0226 アイシヤ  
「ん、んあああっ、すごい、深いいい……奥まで、あああ……くるうっ、入ってくるの  
が丸見ええ……あああっ！ ああ……あ……」

cha0227 アイシヤ  
「ああっ……うそっ、あああっ、もうイクっ！？ あああああっ！ んあああああああ  
ああああっ！ あひっ、あっ、あああっ……」

cha0263 ジスニア  
「もう、どれだけガマンしてたんですか？ だらしないイキ顔ですね」

cha0228 アイシヤ  
「はあっ……はあっ、ああっ……あぐうっ……いきなり、いつちやったあ……あああ……  
…」

cha0229 アイシヤ

「ひっ、いいいいっ、ああああっ奥だけええグリグリしないでえええあああつ、あつ、あ、あ、あ、やああああつ、またきちゃうううううっ」

cha0230 アイシヤ

「あああああああああああああっ！……！」

cha0231 アイシヤ

「ふあっ……あ……ああ……あひっあ、あ、あ……ああ……。はあ、はあ……もう、2回もイっちゃうなんて……あああ……」

cha0232 アイシヤ

「ああ……私ね……もつといい」としてほしいの……もつと、もつと欲しいのおお……あ、あふうう……」

cha0233 アイシヤ

「ひっ……あ……あ、そんなにゆっくり引き抜いて……ひ、い……んおおおおおおっ！……奥まで一気にいっ……あああああ……」

cha0234 アイシヤ

「あ……ん……ああ……また、ゆっくり……んひひひひひいっ！……！」

cha0235 アイシヤ

「んあああつ、もうだめええっお願いいいい、パンパンしてええ！ 激しく腰振ってえええっ！」

cha0236 アイシヤ

「ああああつ、あうううっ、おっ、あっ……あああつ、んんんっ！ おちんぽっ、おちんぽがあつ、ズブズブするううっ、ああああああつ！」

cha0237 アイシヤ

「あぶううっ、私のおまんこの奥までおちんぽ届くのっ！ ああ、あ、あつ、しゅいっのっ、ああああつ、これ好きいいっ！……あおおっ」

cha0238 アイシヤ

「ああいつ、ふあおおつ、あ、あ、あつだめっイグッ!! まだ、まだイキたくないのっ! このおちんぽまだ味わいたいのっ、あああつ、あ、お願い、キスしてえっ!」

cha0239 アイシヤ

「ふんむっ……じゅっ、ちゅっちゅ、ちゅううっ、れろろ、える、れるっ、ん、ふっ、ちゅうう……ちゅば、れろおっ……」

cha0240 アイシヤ

「ちゅっ……んっ、んんんっ……ふむうっ……ちゅばっ、れろっ、んあっ……ああ……はふ、ん……はあ、はあ……休憩できたあ……」

cha0241 アイシヤ

「ありがとう……、またいつばい突いてっ。イキまくりたいの、あなたの精液も欲しいの! んっ、んんんっ、ああ、あ、あ、あつ、おちんぽきたっ、はああああんっ!」

cha0315 セラ

「っ……? な、なに……? っ、アイシヤ……!?!」

cha0242 アイシヤ

「んんあああつ、あああつ、ふあああつ、んおおっ、ああっ、ぎもち、いいいいっ? ふおあああつ、あつっ、ああうううっ、ふうううんっ」

cha0316 セラ

「アイシヤ……あなた……」

cha0243 アイシヤ

「あっあ、ああっ、セラっ起きたのねっ? あああっ……ふあああっセラ、見て、ああんっ、私がイクところ見てええええっ!」

cha0244 アイシヤ

「ひぐっ、うっ、うんっ、あああつ、あつ、あ、あ、すっ……! ああっあつ、ああああっあふっ、んんんっ」

cha0245 アイシヤ

「ひあああつ、あつ、あつ、あつ、中ああかき回されるううつ、ああ、あああつ、うんつ、ああおつ、おおおつ……！」

cha0246 アイシヤ

「ああつ、ひいつ、おおあつつ、イクつ、イグイグツ、イグウウウツ！！　ああああつ、おちんぼでイグううううううツ！！！！！！！！」

cha0247 アイシヤ

「ひぐううううつ……あああつ……あ、あん……はあ……おちんぼがあ、中でドクドクしてるつ……ああああ種付け汁がああ……流れてきてるのおおつ」

cha0248 アイシヤ

「おおおおつ、おあつ……おあああつ、おまんこお、ひくひくしちやうううつ……うああつ……ああ、おおああ……おほおおおんつ、たまらないいいいつ……」

cha0249 アイシヤ

「はあつ……ああああ……おあ……種付けプレスうう……幸せええええ……」

cha0264 ジスニア

「はっあああ……アイシヤ、えつちですね……はあ、はあ、あん……ああ……」

cha0317 セラ

「アイシヤ……ジスニア……。ああ、私たち……もう……あは、あはは……」

cha0318 セラ

「ねえ……さつきあんなにしたのに、またアソコが疼くの……はあ、あああ……私も、種付プレスされたい……」

cha0265 ジスニア

「はあ、ああ……私も、ガマンできなくなってきました。私に、私に入れて下さい………」

cha0250 アイシヤ

「はあああ……ふうう……ん……いやあ……私ももう一回、してほしい……はあ……あああ」

cha0266 ジスニア

「ほら、みんなで足を広げて、おまんこをご主人様に見せて……ん、はあ、はあああ…  
…」

cha0319 セラ

「ううっ……ねえ、こんな恥ずかしい格好してるんだからお願い……。も、もし先に入  
れてくれたら、戦士団の他の女の子達も紹介するから」

cha0251 アイシヤ

「あああれならあ、私は、毎日お料理作ったり身の回りのお世話するからあつ、お願  
い、入れてちょうだい……！」

cha0267 ジスニア

「うふふ、ふふふ……。さあ、ご主人様、どのおまんこにおちんぽを入れますか  
あ？」

【収録メモ】以下、モノログでお願いします。

cha0252 アイシヤ (M) 「山賊との小競り合いが続いていた町、サンクトル。山賊の脅威がなくなったことによつて村は平和を取り戻し、これまで以上に活気づいている」

cha0253 アイシヤ (M) 「私たち戦士団の役割は何も変わらない。第二の脅威が現れたときに備えて、日々自らの腕を鍛え、町を守るように研鑽を続けていた」

cha0254 アイシヤ (M) 「そう、私たちの生活は何も変わっていない——」

【収録メモ】以上、モノログ終了です。

cha0320 セラ 「ふう、お疲れ様。今日の訓練も上々ね」

cha0268 ジスニア 「改善点があるので、そこは後ほど書面にまとめて提出します」

cha0321 セラ 「ありがとう。頼りにしてるわよ、副官」

cha0255 アイシヤ 「ねえねえ、時間があるならこれから3人で市場に行かない？」

cha0269 ジスニア 「私は、この後予定があるんです」

cha0322 セラ 「え、ああ……私もちよっと用事があるのよね」

cha0256 アイシヤ 「そっか、わかったわ。じゃあここで解散しましょうか」

cha0323 セラ 「ええ、また明日ね」

【収録メモ】以下、モノログでお願いします。

cha0257 アイシヤ (MI) 「女の勘と言うべきなのか、私はなんとなく違和感を覚え、家に帰るフリをしつつ後をつけていくことにした。どちらにしようか迷った結果、セラについて行く」

cha0258 アイシヤ (MI) 「セラは執務室に向かうようだ。何かまだお仕事をするつもりなんだろうかと思った矢先……ご主人様が、セラの後を追うように執務室へと行くのが見えた」

cha0259 アイシヤ (MI) 「ああ……そういうことなのね。それなら、ウィルにセラの帰りが遅くなると伝えるにしようかしら……」

【収録メモ】以上、モノログ終了です。  
＝編集時に少し間を開ける。

cha0270 ジスニア 「ちゅぽっ……んっ、れろっ、んぢゅうっ、えるるっ……ちゅっぽちゅっぽ……んっ、んぢゅうっ……」

cha0271 ジスニア 「んあっ……、アイシヤ……どうして……」

cha0260 アイシヤ 「ジスニアこそ、セラとウィルのおうちで何してるの？」

cha0272 ジスニア 「ウィルのおちんぽ啜えるの……すっかり癖になってしまっ……れろおっ」

cha0261 アイシヤ 「ジスニアったら……。睡眠薬を飲ませてフェラチオと手コキなんて、いたずらが過ぎるわよ。このこと、セラは知ってるの？」

cha0273 ジスニア

「んっ、んっ……内緒に決まってるじゃないですか。だからこそ、燃えるんですよ。んっ……あ、あっ、出そうですね」

cha0274 ジスニア

「んあむっ……じゅ、じゅっ、じゅるる、ん、んうっ……ちゅぽぽっ、じゅうう、んんんんんっ……!」

(射精)

cha0275 ジスニア

「んんんうう……んううえうっ……わあ、こんなにたくさん出ました。手のひらからこぼれ落ちそうです。アイシヤ、ウィルの精液味わってみますか?」

cha0262 アイシヤ

「ええ、弟の精液なんて……いいのかしら?」

cha0276 ジスニア

「いいじゃないですか、弟でも男は男なんだから」

cha0263 アイシヤ

「そうねえ……じゃあ……ん、んん……くっ。ああ、男の人のってやっぱりおいしいわねえ」

cha0277 ジスニア

「じゅるっ、んくっ……くっ。はあ……これを味わうと興奮してきます……ああ、主人様のも飲みたい」

cha0264 アイシヤ

「ご主人様は、執務室でセラとエッチしてるみたいよ」

cha0278 ジスニア

「セラの用事って、そういうことだったんですね、うらやましい……。いけない、ウィルが起きてしまうかもしれませんが、そろそろ行きましょう」

cha0265 アイシヤ

「せっかくだからうちに来てお茶していけば?」

＝編集時に間を開ける。

cha0279 ジスニア

「いいですね、ぜひお邪魔します。じゃあウィル、また今度」

cha0280 ジスニア

「くっ……はあ……。この紅茶、おいしいです」

cha0286 アイシヤ

「ご主人様がプレゼントしてくれた紅茶なの。あの人ほんとセンスあるわ」

cha0281 ジスニア

「私はこの間、大好きなお花をもらいました。男性としてどこまでも魅力的な人ですよ  
ね……幸せです」

cha0267 アイシヤ

「そうだと、戦士団の子、次は誰をご主人様に紹介する？ 最近入った巨乳の子なんていいと思わない？」

cha0262 ジスニア

「ああ、あの子ですね。……私、あんまりおっぱいが大きくないから、あの子が気に入られると私、捨てられてしまうかもしれません」

cha0268 アイシヤ

「ジスニアったらほんとに心配性なんだから。そこがあなたの可愛いところだけど」

cha0269 アイシヤ

「どんな子を紹介しても、私たちに対する愛は変わらないわ。それに、昨日の夜だってあなた愛されてたじゃない？」

cha0283 ジスニア

「あふっ……。そうですよね……ありがとうございます、アイシヤ」

cha0270 アイシヤ

「ところで、昨日はどんな体位でしたの？」

cha0284 ジスニア

「バックで獣のように犯されました。そういう風にしてくださいっておねだりしちゃったんです。アイシヤはこの前どんな体位をおねだりしたんですか？」

cha0271 アイシヤ

「種付けプレスしてもらっちゃった。えへへ」

cha0285 ジスニア

「アイシヤ、ほんとに種付けプレス好きですね」

cha0272 アイシヤ

「うん、ハマっちゃって。奥までグングン来るのが好きなの」

cha0286 ジスニア

「ああ……ご主人様のおちんぽをしゃぶりながら、オナニーしたあい……」

cha0273 アイシヤ

「ジスニアったら、へ・ン・タ・イさんっ♪」

cha0287 ジスニア

「淫乱デカ乳女に言われたくないですよっ」

cha0274 アイシヤ

「やだーもう！ ゑゑゑっ」

cha0288 ジスニア

「くすくすっ……」

cha0275 アイシヤ

「私ねえ、最近避妊薬飲むのやめようになって思ってるのよね」

cha0289 ジスニア

「え、赤ちゃんできてもいいんですか？」

cha0276 アイシヤ

「だってー、ご主人様との子供、絶対かわいいもの。せっかく種付けプレスしてもらってるし。ああでも、どうせなら3人で身ごもって産みたいわね」

cha0290 ジスニア

「いいですね！ ああ、でも……セラにはウィルがいましたね」

cha0277 アイシヤ

「あの二人、まだ身体の関係ないんでしょう？」

cha0291 ジスニア

「はい、あいかわらず結婚式を挙げるまではしないらしいので……」

cha0278 アイシヤ

「ウィルがプロポーズして随分経つけど、まだ挙げないのかしら……結婚式、楽しみにしてるんだけどなあ」

cha0292 ジスニア

「その時は、盛大にお祝いしてあげたいですね」

cha0279 アイシヤ

「そうね」

【収録メモ】以下、モノログでお願いします。

cha0280 アイシヤ (M)

「そう、私たちの生活は何もかわっていない。平和な町で、幸せな日々を送っている――」

ニ音声編集時の間

【収録メモ】以下、モノログでお願いします。

cha0324 セラ (M)

「私は、二人に用事があると言って分かれた後、一人執務室へ向かう。いつからだろう、薬の副作用以上に私を突き動かすものがあると気づいたのは」

cha0325 セラ (M)

「ウィルという時は心が満たされる。でも、あの人という時は、すべてが満たされる。心も、身体も、魂でさえも……。この感覚が、幻だったとしても私はかまわない」

【収録メモ】以上、モノログ終了です。

cha0326 セラ 「もうそろそろ、あの人来てくれるかしら……」

cha0327 セラ 「あら、いらっしやい！ こんな時間にどうしたのよ。もしかして仕事、手伝いに来てくれたの？ なんてね」

cha0328 セラ 「この前紹介した戦士団の女の子どうだった？ 私たちの見立てでは、すごくエッチな才能がある子だと思ったんだけど……。ふふふ、ご満足いただけただけで何よりだわ」

cha0329 セラ 「武術の指南役として雇われたあなたにかわいがられるんだから、あの子たちも幸せよね」

cha0330 セラ 「何か飲む？ 紅茶？ ミルクかレモンは？ わかったわ」

cha0331 セラ 「でもまさかこの私があなたに、剣の競い合いで負けるだなんて、ほんとに驚いたわ。それだけの強さ、どうやって手に入れたの？」

cha0332 セラ 「……経験、ね。私ももっと強くなれるかしら。……ふふふ、そうね。あなたがいるんだもの、きつと強くなれるわ。頑張ろつと♪ きやつ……な、なに？」

cha0333 セラ 「今日もまたここですの……？ だっておとといもここ……まあ、いいけど」

cha0334 セラ 「んんっ……はあ……あなたの指ってほんと、最高お……はあ、んっ……あああつ……ああっ……きもち、いいい……」

cha0335 セラ 「はあ、あ……ああっ、あなたが部屋に入ってきた時から……おまんこひくひくしてたのっ……あはあっ……あつ、ん、んんっ……ふ、ああっあ、あん、んんんあっ……」

cha0336 ヤリ

「あぁっ、あぁんっ……あ、あぁぁっ、あっ、んんっ、あっ、あ、あ、私っ……もうっ……!」

cha0337 ヤリ

「っっ……ふぁぁ……!? なんでやめちゃうのお……はぁ、はぁ……もうすぐでイキそうだったのにっ……ガマンなんて、できないよぉっ……」

cha0338 ヤリ

「はぁ……ぁ……何? して欲しいことがあるの……? フェラ、チオ? それって……だめよ……口では絶対にしないって、約束でしょ……?」

【収録メモ】以下、モノログでお願いします。ゆっくり、溜めて読んで下さい。

cha0339 ヤリ (M)

「戸惑う私に、クローズが顔を近づけてくる……耳元で、囁いてくる……。もし、口ずしたら、今日は一日中……私を、愛してくれると……」

cha0340 ヤリ (M)

「あぁぁでも、口はウィルのためにとっておかなくちゃ……そうよ、だめよ、そんなの絶対にできない……アイシャとジスニアと私を平等に愛してくれるだけ……」

【収録メモ】以上、モノログ終了です。

cha0341 ヤリ

「れるぅっ……ん、あ、はぁっ……じゅぽっ……ちゅぽおっ、んん、れるっ、れろっ、じゅぷっ、じゅぷぷっ、んんっ……」

【収録メモ】次の文章のみ、モノログでお願いします。

cha0342 ヤリ (M)

「あれ……私……何してるんだろう……?」

cha0343 ヤリ

「ふっ、んんっ……あ、はぁっ、はぁっ……んっ、じゅむむっ……んぁっ……あむっ、じゅぷうっ、じゅぽっ……ん、ふううっ、れるれろっ……」

【収録メモ】次の文章のみ、モノログでお願いします。

cha0344 セリ (M) 「しゃぶるのは初めてだけど、わかる。どうしたらこの人が気持ちよくなるか……」

cha0345 セリ 「ちゅうっ……んっ、ここが弱いんでしょう？ れろっ……ちゅぱっちゅぱあっ……んふふ、びくびくしちゃって……もっとしてあげるわね。じゅぽっ、じゅぽぽぽっ」

【収録メモ】次の文章のみ、モノログでお願いします。

cha0346 セリ (M) 「口で奉仕するアイシヤとジスニアを見ていて……ずっと、うらやましいと思っていてから」

cha0347 セリ 「じゅっ、じゅるるっ、んんあっ、出してっ……！ ちゅぱ、じゅる、れるるっ、んんっ、ふっ、んんっ……ちゅうううううううう……」

cha0348 セリ 「んぐううっ……んくっ、くくっ、くくっ……んふあっ……これが、精液の味い……はあ、はあ……おいしいっ……」

【収録メモ】以下、モノログでお願いします。

cha0349 セリ (M) 「ああウイル……ごめんね。私とうとう、口まで挿げちゃった」

cha0350 セリ (M) 「でもウイル、私約束する。結婚式を挙げたら、もうこんなことはおしまいにするから。……だから、式を挙げるのは、もう少し待ってね」

【収録メモ】以上、モノログ終了です。

cha0351 セリ

「ねえ、約束よ？ 今日是一日中、私だけを愛してくれるのよね？ ああ……まずは何をしてくれるの？ 後ろから？ それとも私が跨がつて腰を振る？」

cha0352 セリ

「窓際で、誰かに見えちゃいそうなところするのもいいわね……！ はあ、はあ……ああ……楽しみい……！」

cha0353 セリ

「あっ……！ ああああっ、太いおちんぼ、入ってきたああああっ、あ、あ、ああああああああああああっ……！」

【収録メモ】以下、モノログでお願いします。

cha0354 セリ (M)

「私……すごく幸せ……」